大草城跡

長野県上伊那郡中川村大草沖町

1990

中川村教育委員会

大草城跡

長野県上伊那郡中川村大草沖町

1990

中川村教育委員会

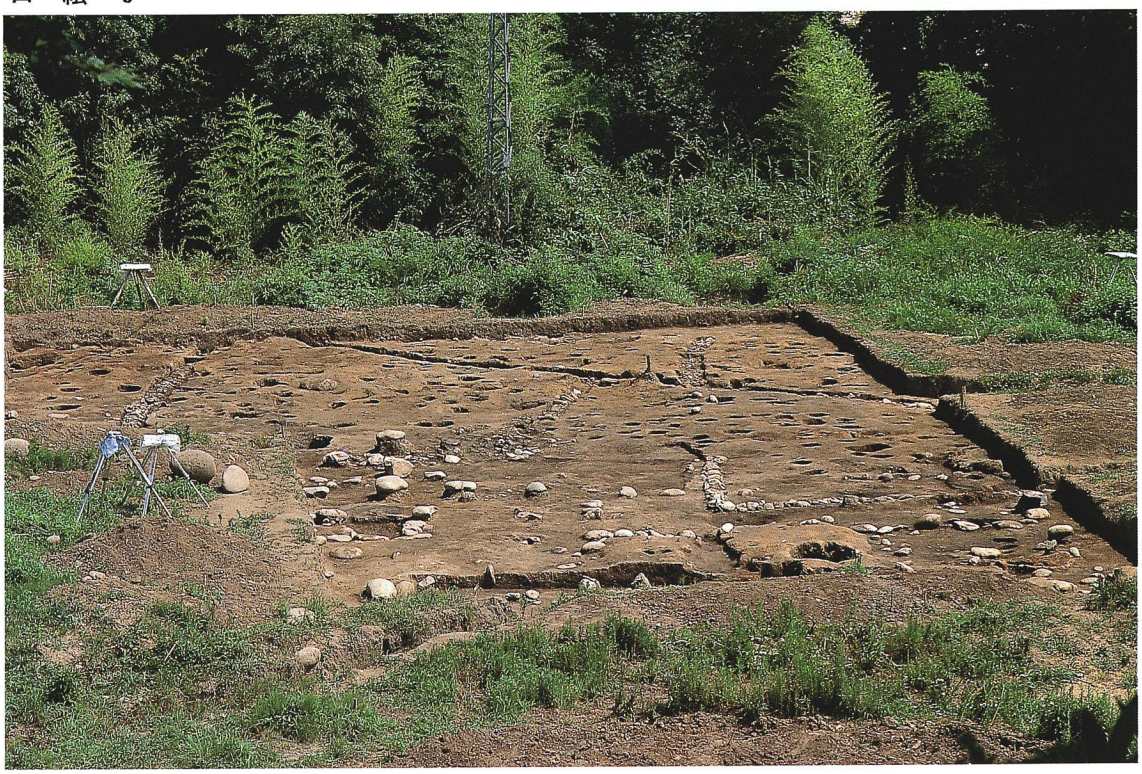
口　絵　1

大草城遠望（西側より）

口　絵　2

大草城遠望（東側より）上・同（南西側より）下

口　絵　3



北の郭{発掘調査後}（南側より）上・暗きょ１号（南側より）下

口　絵　4

暗きょ3号　鍛冶屋場（東側より）上・ピット群鍛冶屋場（東側より）下

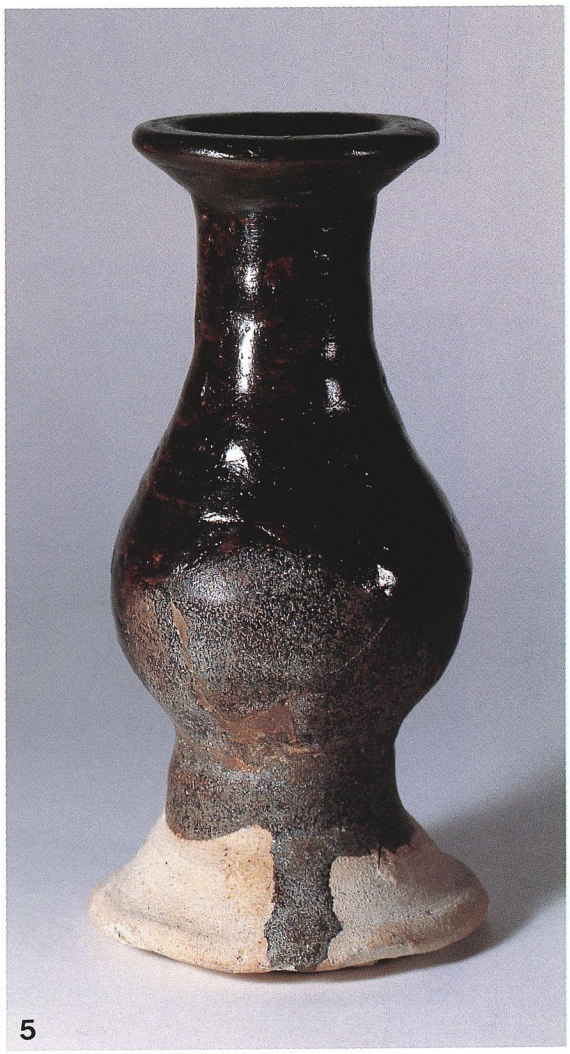
口　絵　5

出土遺物　青磁（外側上）・同（内側下）

口　絵　6

出土遺物　天目茶碗 1～5，7・双耳壷 6・小壷 8，9

口　絵　7



出土遺物　天目茶碗１～４・仏花瓶５

口　絵　8

出土遺物　祖母懐壷（外側上）・同（内側下）

序

大草城跡は，中川村大草の沖町部落にあり，村の文化財に指定されています。

今からおよそ645年前，南北朝時代大河原にお入りになられた「宗良親王」を守護した大河原城主香坂高宗の拠点であり，香坂氏代々の居城であったと伝えられています。

今までに村誌や郷土史家により紹介されているものの資料は乏しく，考古学的な調査は行われていません。村では都市計画事業により大草城跡の公園化に伴い，昭和60年5月より北の郭（二の丸）を中心に発掘調査を行いました。その結果13世紀から14世紀の中国製青磁をはじめ，15世紀室町時代のものを中心に16世紀大窯の陶磁器や遺構を数多く発掘することができました。これにより従来の研究にあわせ，より現実なものとして，中世城郭の歴史を探る手掛かりが得られたことは幸いと思います。

今回の調査にあたり，調査団長の友野良一先生をはじめ調査員の先生方や，発掘関係者並びに報告書のまとめにご協力いただいた方々に心から感謝申し上げます。

平成2年3月

中川村教育長　北澤　正美

例　　言

1. 本書は昭和60年に実施した文化財保護法第98条の２第１項の規定に基づく，埋蔵文化財の学術発掘の報告書である。

2. 本事業は中川村教育委員会が実施した。

3. 本報告書は，昭和60年に発掘調査を行い，検出した遺物の整理や参考資料等検討し，平成元年度に報告書を作成することとした。

4. 各遺構の図面縮尺は１／40，遺物の縮尺は１／２を基準としたが，一部そうでないものもあり，縮尺は各図に示してある。

5. 本報告書の執筆及び図版作成者は次のとおりである。

○ 本文執筆者　友野　良一・寺平　宏・半崎　節子

○ 遺構図　高山よし子・平沢喜久美・酒井　艶子・小田切守正
半崎　節子・小原　妙子

○ 遺物の実測・拓影　木下平八郎・小木曽　清・高山よし子・横田　愛子
平沢喜久美・酒井　艶子・小田切守正・半崎　節子

○ 遺物の復原　小木曽　清

○ 写真の撮影・図版　木下平八郎・友野　良一

6. 本報告書の編集は教育委員会が行った。

7. 遺物及び実測図類は中川村歴史民俗資料館に保管してある。

目　　次

口　絵

序

例　言

第Ⅰ章　発掘調査の経緯
第１節　発掘調査に至るまでの経過 …… 1
第２節　調査会の組織 …… 1
第３節　発掘調査の経過 …… 2

第Ⅱ章　遺跡の環境
第１節　遺跡の位置 …… 5
第２節　地形及び地質 …… 5
第３節　歴史的環境 …… 10

第Ⅲ章　遺構と遺物
第１節　調査の概要 …… 13
第２節　大草城跡 …… 13
第３節　掘立建物址 …… 22
第４節　その他の遺構 …… 24
第５節　出土遺物 …… 30

ま と め …… 43

出土遺物一覧表 …… 45

図　　版 …… 59

挿　図　目　次

1図　大草城跡の位置図 …… 5
2図　大草城跡附近の地質図及び地形地質断面図 …… 6
3図　地質柱状図×1，×2 …… 7
4図　地質柱状図×3，×4 …… 8
5図　E－Fの地形地質断面図 …… 10
6図　中川村の城郭位置図 …… 11
7図　大草城跡の地形図 …… 12
8図　大草城跡の発掘区及び復原図 …… 14
9図　大草城跡遺構配置図及び発掘個所断面図 …… 15
10図　大草城跡出土遺物配置図及び発掘個所断面図 …… 17
11図　大草城跡附近の小字図 …… 21
12図　第1号・第2号掘立建物址実測図 … 23
13図　第3～第9号掘立建物址実測図 …… 25
14図　第1号・第2号竪穴址，第3号土坑，石囲炉址実測図 …… 26
15図　鍛冶屋場実測図 …… 27
16図　1号暗きょ・2号暗きょ実測図 … 28
17図　3号暗きょ・ピット群・焼土群粘土群実測図 …… 29
18図　出土遺物実測図　青磁関係 …… 31
19図　出土遺物実測図　天目茶碗関係 … 33
20図　出土遺物実測図　灰釉関係 …… 35
21図　出土遺物実測図　鉄釉関係 …… 36
22図　出土遺物実測図　擂鉢 …… 37
23図　出土遺物実測図　その他1 …… 39
24図　出土遺物実測図　その他2 …… 41
25図　大草城出土古銭 …… 42

図　版　目　次

図版1　主郭（東北側から・東側から） …… 60
図版2　北の郭調査前・調査後（南側から） …… 61
図版3　暗きょ3号（西側から）・暗きょ3号，鍛冶屋場（東側から） …… 62
図版4　暗きょ3号，鍛冶屋場（東側から）・石囲炉址（南側から） …… 63
図版5　暗きょ細部・暗きょ2号，1号 …… 64
図版6　暗きょ1号，2号 …… 65
図版7　暗きょ断面及び細部 …… 66
図版8　炉址・鍛冶場・1号，2号竪穴址・土坑 …… 67
図版9　遺物出土状態（天目茶碗・仏花瓶・古銭・青磁・灰釉陶器・徳久利） …… 68
図版10　出土遺物（天目茶碗・小壷・双耳壷・香炉） …… 69
図版11　出土遺物（常滑系大甕・灰釉陶器） …… 70
図版12　出土遺物（灰釉陶器） …… 71
図版13　出土遺物（擂鉢・鉢） …… 72
図版14　出土遺物（内耳鍋・仏花瓶・瑠璃釉・擂鉢・石鉢） …… 73
図版15　出土遺物（擂鉢・鉄釉皿・徳久利） …… 74
図版16　出土遺物（古銭・飾金具・鼈甲製笄・鉄製品） …… 75
図版17　出土遺物（鋳型・坩堝・羽口・鉄鋌） …… 76
図版18　出土遺物（石臼・砥石） …… 77

口　　絵

口絵1　大草城遠望（西側より）
口絵2　大草城遠望（東側より）上・同（南西側より）下
口絵3　北の郭{発掘調査後}　（南側より）上・暗きょ1号（南側より）下
口絵4　暗きょ3号，鍛冶屋場（東側より）上・ピット群鍛冶屋場（東側より）下
口絵5　出土遺物　青磁（外側上）・同（内側下）
口絵6　出土遺物　天目茶碗1～5，7・双耳壷6・小壷8，9
口絵7　出土遺物　天目茶碗1～4・仏花瓶5
口絵8　出土遺物　祖母懐壷（外側上）・同（内側下）

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査に至るまでの経過

大草城跡は，上伊那郡中川村大草沖町部落に所在し，南北朝時代下伊那郡大鹿村大河原の地においでの「宗良親王（むねながしんのう）」を守護した「香坂高宗（こうさかたかむね）」の居城であったとされており，昭和52年４月１日に村の文化財に指定してある。しかし，大草城にかかわる歴史的資料は古文書等の文献や表面採取による遺物であり，今まで城郭の形式分類や考古学的な調査はされていなかった。村では都市計画事業によりこの大草城跡を公園にする工事を進めることとなり，公園に造成されれば遺跡としての現状保存や歴史的解明が不可能となるため，教育委員会ではこの埋蔵文化財を工事着手前に発掘調査を行うため，大草城跡発掘調査団を編成し，この調査団が業務を遂行することとなった。

昭和60年５月13日に大草城跡調査会を開催し発掘調査について協議し，５月21日午後現地において教育委員会・公園関係者・文化財調査委員・調査団等が参集して鍬入式を挙行した。

第２節　調査会の組織

○中川村教育委員会

教育委員長（前）	杉沢　要
〃	斎藤英雄
同職務代理	米山俊博
委員	中塚道雄
〃	米沢広明
教育長	北澤正美
教育次長（前）	石原　守
〃　（元）	湯沢幸雄
〃	林　忠彦
主任主事	半崎節子
〃	小原妙子

○大草城跡発掘調査団

団長	友野良一	（日本考古学協会員）
調査員	寺平　宏	（日本第四紀学会員）
〃	木下平八郎	（東洋陶磁学会員）
〃	小木曽　清	（東洋陶磁学会員）

第３節　発掘調査の経過

年月日	日　　誌
昭和60年	14時より役場内教育委員会事務局で調査団会議を開催し，発掘調査方法としては２ｍ
５月13日	四方のグリッド設置後試掘形式等の打合せを行う。
17日	現場調査予定地の草刈。
21日	13時より調査団会を開催。15時より現地にて教育委員会・公園関係者・文化財調査委員・調査団等参集して鍬入式を行う。
22日	機材運搬及び10ｍ×10ｍメッシュと，２ｍ×２ｍのグリッド設定。
23日	標高の設定。Ｓラインのグリッドをひとつおきに掘り下げる。
27日	Ｑラインのグリッド試掘。刀子，天目茶碗片等の遺物の取り上げ。
28日	Ｑラインのグリッド試掘。
30日	Ｏ．Ｑラインのグリッド試掘。柱穴と思われるものが５個所あり。
６月１日	Ｓラインのグリッド掘り下げ。
３日	調査団会で検討の結果，Ｏ～Ｓグリッドの全面発掘に切り変えて進める。
４日	Ｒ・Ｓグリッド掘り下げ。遺物取り上げ。
５日	考古学研究室において遺物整理。
７日	Ｒ・Ｓグリッド掘り下げ。遺物取り上げ。
10日	Ｑ・Ｒグリッド掘り下げ。
11日	Ｑ・Ｓグリッド掘り下げ。遺物取り上げ。
12日	Ｑグリッド掘り下げ。完形品に近い内耳鍋出土。Ｑ６～４グリッドにかけ石列の発見。
14日	Ｏ・Ｐグリッド掘り。文化財調査委員視察。
15日	Ｏ・Ｐグリッド掘り下げ。
17日	Ｏ・Ｐグリッド掘り下げ。遺物取り上げ。
18日	Ｐグリッド掘り下げ。
19日	重機にて20グリッドラインを南にのばしトレンチ掘りを行う。（空堀等の確認のため）
21日	重機による東西トレンチ掘り及び雨水抜きの溝掘り。南北の堀の確認ができた。
27日	Ｔ～Ｖの７グリッドの掘り下げ。竹の根が多く作業難行。
29日	Ｔ～Ｖの７グリッドの掘り下げ。遺物の取り上げ。
７月１日	
～	一部の出土遺物整理。
４日	
５日	７グリッドラインの断面図，及び清掃写真撮影。
６日	７グリッドラインのセクション個所取り壊し。
８日	遺物整理。実測用メッシュの設定。
９日	メッシュ内測量。全景写真撮影用の足場設置。

7月10日	メッシュ測量。写真撮影。雨天のため午後遺物整理。
12日	柱穴掘り下げ及び断面図。婦人会役員の見学。
13日	「大草城跡発掘調査速報」を作成。メッシュ測量。
14日	速報資料作成。
15日	柱穴掘り下げ及び断面測量。
16日	柱穴掘り下げ。除去する石のレベル測量。中川中学2年生見学。
17日	柱穴掘り下げ。
18日	V～Zの7グリッドライン西側延長の掘り下げ。
19日	7グリッドライン西側延長の掘り下げ。
22日	全体測量。遺物の取り上げ。
23日	暗きょの掘り下げ。
25日	暗きょの実測。
26日	暗きょの清掃及び写真撮影。
27日	T，Uの7グリッド掘り下げ。
29日	U7グリッド掘り下げ。
30日	U7グリッド掘り下げ及び遺物の取り上げ。
31日	重機による堀の再確認及び埋め戻し。
8月1日	全体写真のための水まき，清掃。
2日	水まき及び全体写真の撮影。
3日	断面図作成。写真撮影。
5日	宮田村より見学。
	レベル測量
10日	
12日	暗きょの断面図。最終確認。
13日	現場作業終了。
10月10日	出土遺物の整理。
11月2日	
3日	中川村歴史民俗資料館　特別展「大草城展」（～30日）
平成元年	
6月1日	報告書作成のための整理作業を始める。

3月20日	報告書作成の作業完了	

梅雨の後，日照り続きという比較的厳しい現場での発掘調査にあたって，深いご理解とご協力をいただいた，調査団・地元の方々・発掘に直接参加して下さった方々に，心より感謝の意を申し上げます。

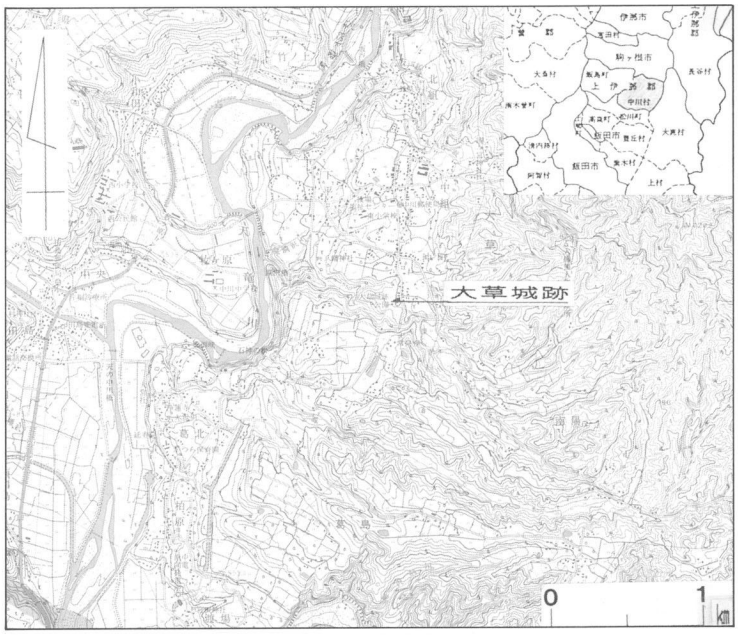
＜発掘調査に参加された方々（順不同・敬称略）＞

工藤　勝秋　・　高坂　清人　・　高山よし子　・　丸田　南枝　・　下平　敬子
米山　節子　・　横田　愛子　・　小島　郁子　・　細田登志美　・　下平　博行
小田切守正　・　酒井　艶子　・　平沢喜久美

第Ⅱ章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置（１図）

大草城跡の地理的位置は，北緯35度37分31秒，東経137度56分56秒で，長野県上伊那郡中川村大草沖町地籍に所在する。この大草城跡に至るには，ＪＲ飯田線伊那田島駅より東方3.3㎞，国道153号線より東方約1.6㎞の位置にあたる。



１図　大草城跡の位置図

第２節　大草城跡付近の地形・地質（２図～５図）

1.　城跡付近の地形概要

大草城跡周辺の地形は東側の伊那山脈山地，山麓部の麓屑斜面および平坦部の河成段丘面に大別される。

東側の山地は領家帯の片麻岩類や花崗岩類などの分布する伊那山脈西縁部にあたり，約20°～30°の傾斜をもって西に面している。この山地の山麓部には６°～８°で西に傾いた緩傾斜地形面が連なっている。これは近くの山地から供給された岩屑が堆積して形成された麓屑斜面である。城跡の位置する平坦面は天竜川の旧河床面でこの地域では最上段の第１段丘面である。この面を形成した頃の広い河原は，かつては七久保方面まで続いていたものと推定されるが，その後の天竜川の下刻作用によって掘り込まれ，さらに下位の段丘面が形成されている。また，この下刻に伴い山地から西へ流れて天竜川へ注ぐ小河川は，段丘面を東西に深く削り込んでＶ字形の谷をつくり，段丘面をいくつかのブロックに分断している。城跡の台地は深沢川とその支流に挟まれて削り残された自然の要害である。

2.　山地および基盤の地質

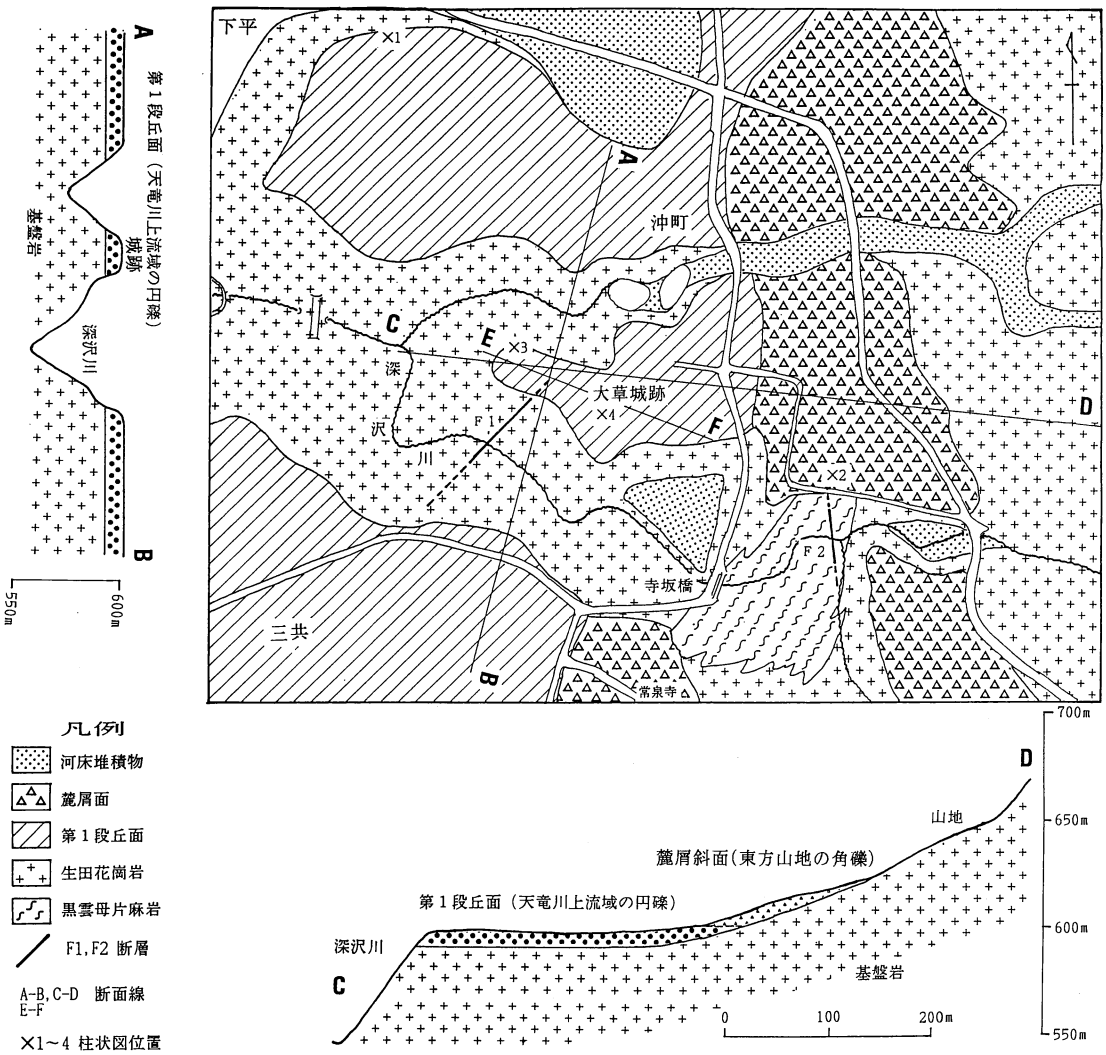
本地域は日本の地質構造区分の中で領家帯という地帯に属している。領家帯は長谷村や大鹿の谷を走る中央構造線の西側に約30㎞～40㎞の幅で分布し，その延長は紀伊，四国を経て九州に達する。この地帯に分布する岩石は雲母片岩・石英片岩・片麻岩・ホルンフェルスなどを主とする

領家変成岩類や，これらの岩石へマグマが貫入して生じた花崗岩類などである。花崗岩類は貫入の時期や岩相の違いからいくつかの岩体に分けられ，中川村地域にはこれらの花崗岩の中で比較的古い時代に貫入して生じた南向花崗岩や生田花崗岩などが分布している。

大草城跡周辺の山地や段丘の基盤をつくる岩石は（２図）に示すようにほとんどが生田花崗岩であり，僅かに黒雲母片麻岩がみられる。

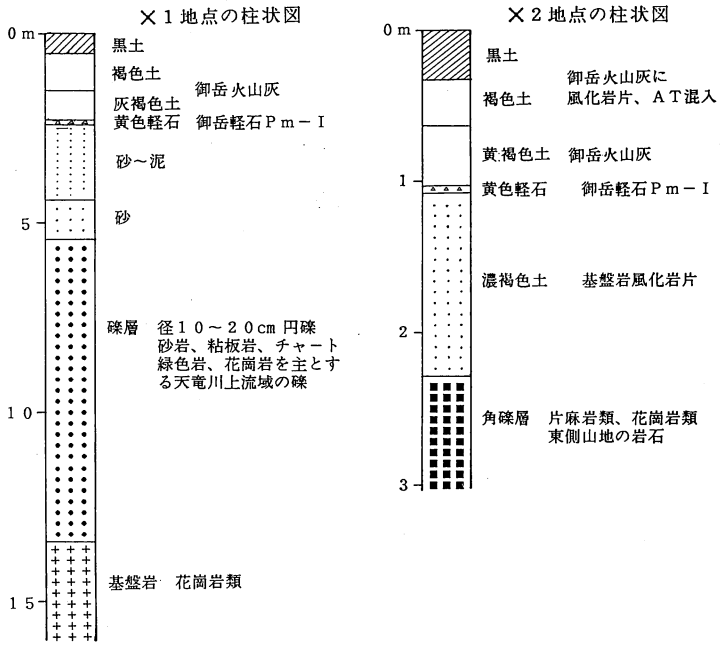
(1) 生田花崗岩

この地域に分布する生田花崗岩は粗粒ないし中粒の角閃石黒雲母花崗閃緑岩を主とし，ときには片状になることもある。城跡の南側道路沿いに露出する岩石はかなり片状の構造を示し，一部に変輝緑岩を捕獲岩としてとりこんでいるため黒い帯がみられる。城跡の南側を流れる深沢川の左岸で花崗岩の中にかなり顕著な断層が観察される（２図，Ｆ１）。約50cmの破砕帯には鏡肌をも



２図　大草城跡附近の地質図及び地形地質断面図

った５～10cmの断層角礫が散在し，断層面に沿って幅10cmの青色粘土層がみられる。破砕帯の両側の花崗岩はそれぞれ約２ｍの範囲で細かに割れ目が入り，崩れやすくなっている。断層の走向・傾斜はＮ20°Ｅ・80°Ｗで深沢川の右岸に延びている。城跡公園南トイレの西側にみられる小さな谷地形は断層破砕帯が侵食されて生じたものであり，36災害のときには柿の大木と共に表層部が川底まで流され，青色粘土層を伴った破砕帯が観察された。



3図　地質柱状図×1，×2

(2)　黒雲母片麻岩

２図に示すように黒雲母片麻岩の小岩体が寺坂橋付近に分布している。周囲の花崗岩との境界は寺坂橋下の深沢川河床およびその上流約 150ｍの南に流路を変えた川沿いに観察され，接触部では黒雲母片麻岩に対して花崗岩が交指状に貫入している。黒雲母片麻岩は黒雲母が多い部分と石英・長石の多い部分とが交互に配列して縞状構造をつくっている。

２図Ｆ２の位置には幅２～３ｍの破砕帯を持った断層が観察され，その走向・傾斜はおよそＮ10°Ｗ・70°Ｗである。

3.　麓屑斜面の形成

２図に示すように山麓部に６°～８°の角度で西に傾斜した緩斜面地形が見られる。この地形面は近くの山地から供給された花崗岩や片麻岩の角礫が堆積して生じた面であり，麓屑斜面と呼ばれるものである。麓屑斜面をつくる角礫は牧ケ原線の延長として新しく作られた道路の切り通しで観察され，その上面は軽石を伴わない火山灰層によって被覆されている。しかしこの面のうち沖町地区南端の藤川宅西側の露頭では角礫層の上に黄色軽石を乗せている。この軽石に含まれる鉱物は磁鉄鉱・しそ輝石・黒雲母・角閃石などの結晶の他に軽石型火山ガラスを含んでおり，御岳軽石Pm−1（KOBAYASHI, SHIMIZU 1962）の特徴と一致する。またこの軽石の噴出年代は，約８万年前（町田・鈴木1971）とされていることから，この面の離水期はＰｍ−Ｉが降下した約８万年以前である。しかしこの地点以外ではＰｍ−Ｉは観察されず，火山灰のみ堆積していることから，この面はＰｍ−Ｉ降下以後から御岳火山灰降下以前の間に離水したことになり，およそ８万年前か

×3地点の柱状図

柱状図	特徴	主な鉱物 重鉱物	主な鉱物 軽鉱物	火山ガラス bw	火山ガラス pm	その他
0 cm	黒褐色	mg>hy>bi>ho	fl≧qz			
	御岳火山灰>花崗岩類風化物	mg>hy>bi>ho (zi)	fl≧qz			
	褐色	mg>hy>ho>bi	fl>qz			
	御岳火山灰>花崗岩類風化物	mg>hy>ho>bi	fl>qz			
		mg>hy>ho>bi	fl>qz			
100 cm △△△	黄褐色 礫質 御岳火山灰+火山岩片+御岳Pm-I	hy>mg>bi>ho	qz≧fl		•	
	黄灰褐色 砂>細礫	bi≫mg	fl>qz			
	花崗岩類風化物	bi≫mg (zi)	fl>qz			
		bi≫mg (zi)	fl≧qz			
200 cm		bi≫mg	fl≧qz			
		bi≫mg	fl≧qz			
		bi	fl≧qz			
	黄灰褐色 細礫>砂 0.2~0.8cm 円礫混入	bi	fl≧qz			
	黄灰褐色 細礫>砂 粘土質・火山灰質の部分あり	hy>au>mg>ho	fl>qz			
300 cm	礫層					
	砂岩・粘板岩・チャート・花崗岩を主とする天竜川上流の岩石					

×4地点の柱状図

柱状図	特徴	主な鉱物 重鉱物	主な鉱物 軽鉱物	火山ガラス bw	火山ガラス pm	その他
0 cm	灰黒色	bi>mg>hy>au	qz>fl	•		
	花崗岩類風化物>御岳火山灰>AT	bi>mg>hy>au>ho	qz>fl	•		
	灰黒色(褐色混合)	bi>mg>hy>au>ho	qz>fl	•		
	花崗岩類風化物>御岳火山灰>AT	bi>mg>hy>au>ho	qz>fl	•		
	褐色(灰黒色)混合 花崗岩類風化物>御岳火山灰>AT	bi>mg>hy>au>ho	qz>fl	•		
100 cm	褐色	mg>hy>bi>ho>au	fl>qz	•		
	御岳火山灰	mg>hy>ho (au)	fl>qz			
	黄褐色 御岳火山灰	mg>hy>ho (au)	fl>qz			
	火山岩片を含む	mg>hy>ho (au)	fl>qz	•		
△△△	黄色軽石(御岳Pm-1)0.2~1cm 混入	mg>hy>ho>bi	fl>qz		●	
200 cm	褐色砂~泥	bi≫mg	fl≧qz			
	花崗岩類風化岩片	bi≫mg	fl≧qz			
		bi≫mg (zi)	fl≧qz			
		bi≫mg	fl>qz			
300 cm		bi≫mg	fl>qz			
	灰褐色粗粒砂~細礫	bi>mg	fl>qz			
		bi (mg,zi)	qz>fl			
		bi	qz≧fl			
	灰褐色砂~泥 部白色粘土質の部分あり	bi	qz≧fl			
400 cm	灰褐色粗粒砂~細礫	bi (mg,zi)	qz>fl			

凡例

〔鉱物〕au：普通輝石　hy：しそ輝石　ho：角閃石　bi：黒雲母　zi：ジルコン
mg：磁鉄鉱　qz：石英　fl：長石
(　)はごくわずか含まれるもの

〔火山ガラス〕bw：バブル型火山ガラス　pm：軽石型火山ガラス
ガラスの含有量　● 10%以上　• 1~10%　・ 1%以下

〔柱状図〕△ 軽石　⁝⁝⁝ 砂~泥　○ 礫　≡ 黒土
白抜きは火山灰を含む層

4図　地質柱状図×3，×4

ら3～4万年前の間である。このように麓屑斜面の形成期は場所によって多少異なっているが，この時期は寒冷な氷河期にあたり，山地では凍結破砕作用によって大量の岩屑が生産され，それが流水またはソリフラクションなどの作用によって運搬されて生じたものであろう。

4. 河成段丘面の形成

前述のように大草の中組・沖町・三共から葛島の葛北上段にかけておよそ600mの高度をもった平坦な面が分布している(2図)。これらの面はいずれも基盤岩の上に砂岩・粘板岩・チャート・花崗岩・緑色岩などの円礫によって構成される10m内外の礫層を乗せ，さらにその上には3図，4図の柱状図に示すように1～2mの砂質の堆積物，およそ10cmの黄色の軽石，1～2mの火山灰質堆積物の順に重なっている。

礫層を構成する礫はこの地域の山地の岩石とは異なり，天竜川上流域から供給されたものである。礫層の上部に重なる砂質の堆積物は黒雲母・石英・長石を主とし，東の山地に分布する花崗岩類の風化物が穏やかな流氷または風によって運搬されて堆積したものであろう。黄色の軽石層の鉱物は麓屑面上に見られる黄色軽石のものと同一であり御岳軽石Pm−Iである。この上に重なる火山灰質堆積物には磁鉄鉱・しそ輝石・角閃石など火山起源の鉱物の結晶が多く，御岳の火山灰を主とする地層と考えられるが，上半部にはこの他に花崗岩類の風化物や姶良Tn火山灰（町田・新井1976，略称ＡＴ）と同じタイプのバブル型火山ガラスが含まれている。九州の姶良カルデラから飛来したこの火山灰の年代は2.1～2.2万年前（町田・新井1976）とされている。

以上の結果から段丘面の形成について次のように考える。

中生代末に地下深所で貫入した花崗岩は，その後の浸食作用によりやがて地表に露出するようになる。約200万年前に誕生したといわれる伊那谷に天竜川が流れるようになり，流水による侵食と堆積が繰り返されてきた。基盤岩の上に重なっている礫層はその上位に御岳軽石Pm−Iが乗っていることからこの軽石の降下した約8万年前より更に以前に堆積が終了したことは明かである。おそらく20～30万年前から基盤岩を削ってこの面を流れた天竜川は厚さ10m内外の礫層を堆積した後およそ10万年前には流路を下方へ移動していった。つまりこの礫層の上面が第1段丘面を形成した昔の天竜川の最後の河床面である。流水による働きをなくしたこの面の上には，その後の風成堆積物が古いものから新しいものへと積み重なり，最上部の火山灰やＡＴが約2万年前に降灰して堆積を終了した。

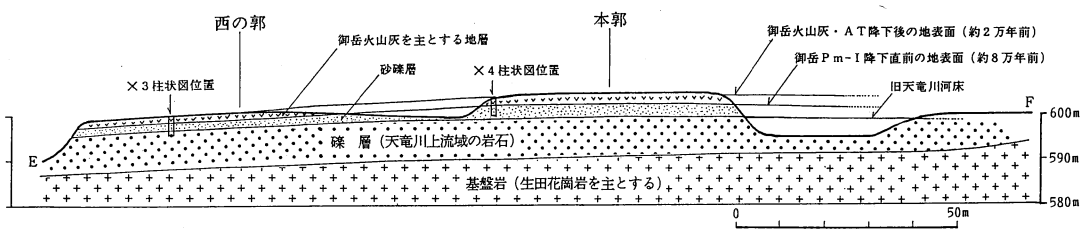
基盤の隆起に伴って下刻を始めた天竜川は1段低い下平の第2段丘面に下がった。この面には御岳軽石Ｐｍ－Ｉがなく御岳火山灰やＡＴを乗せていることから，面の形成期は約8万年前以後から約3万～4万年前の間であろう。この頃は天竜川の下刻に伴ってその支流の下刻作用も強くなり，堂洞沢川・深沢川・凰来沢川などが第1段丘面を切って天竜川へ注ぐようになる。次いで火山灰降下以前の3～4万年前頃から再び天竜川の下刻作用が強くなり，さらに下位の段丘面を形成しつつ現在の流路を流れるようになった。この結果支流も再び下刻を始めて深い谷を刻み，現在の地形に至った。

5. 城跡の地形

城跡の面をＥ－Ｆ（２図)の方向に切った地形の断面は５図のようになり主郭は円形の台地となって盛り上がっている。主郭の周囲の面は流水の侵食によって形成された１段低い段丘面か，或いは人工的に掘り下げたものか，また，掘った土砂を主郭の上に盛り上げたか，などの疑問を解決するために２図の×３，×４地点を調査した結果が４図である。

西の郭の西部と本郭ではほぼ同一の堆積物がみられることから，これらは同時代の堆積面であり本郭と西の郭はかつては緩やかに西に傾いた一連の地形面であったと考えられる（５図)。また段丘面を川の流れが削ったとすればその川の河床礫が残されているはずであるがそれもない。これらの結果から主郭の西と東の台地は人工的に掘り下げたものと考えるのが最も妥当であろう。

また主郭に盛り土をしたかという疑問に対しては４図の柱状図に示したようにこの附近の第１段丘面上に見られる堆積物と同じものが整然と堆積しており，人工的に盛土した形跡はない。



５図　Ｅ－Ｆの地形地質断面図

第３節　歴史的環境

大草城についての文献は乏しく，古文書などの記録によって，その存在が確かめられるのは吉野朝時代で，城主香坂高宗以降のことである。それまでの香坂氏については，系譜的に明かにされていないが，北佐久郡三井村香坂氏の分流であるとみられている。香坂氏は，東信地方における豪族滋野氏の一族で，古くより牧官として大規模な牧場経営をしていた。平安時代以降東信地方において牧馬は非常に発展し，その範囲は次第に拡大され，諏訪地方からさらに南へのびて，大河原の地まで発展し，香坂氏もこれに伴い勢力を拡大し，竜東地域における中心的存在であったとみられている。

後醍醐天皇の第八皇子宗良親王は，南北朝勢力の回復を計るため各地を転戦し，興国５年（1344年）大鹿村の大河原に入られた。当時34才であった。その後この地に留まり，その間時をみて武蔵・越後・美濃・尾張の諸国に軍を進め，征東将軍として宮方をとりしまった。

当時の伊那谷は天竜川の西地方にあっては，武家方足利幕府勢力の有力な与党で，伊那谷に深く根を下ろしている小笠原氏とこれに従属している竜西諸族の支配下にあった。一方南朝の信濃

宮方の中心は諏訪の神氏で伊那谷の天竜川東側一帯におよび，特に伴野庄を中心とする知久氏，上伊那竜東の藤沢氏，大河原鹿塩庄の香坂氏らであった。

大河原城主　香坂高宗は，宗良親王に忠誠をつくし事業を扶け，様々に心を砕いて親王の安泰を期した。大草城は香坂高宗の居城といわれ，竜西からの侵略を見張り，食料供給基地として又近郷との交流など，経済・軍事の面から大河原にある親王を支えていたもので，香坂氏の重要な拠点であったとみられている。

その後文中３年（1374年）親王が吉野に帰られるまでの30年間高宗の忠誠は続くのであるが，その功空しく南朝方の衰勢により50年間にわたって争われた南北朝時代も終わり，各国の守護は荘園を侵略して大名となり，信濃の守護は松尾城の小笠原氏の勢力下になった。

大草城には香坂氏の子孫が居住し，この一帯を領有した。このことは「諏訪御荷札之古書」によりうかがい知ることができるが，詳細は不明である。

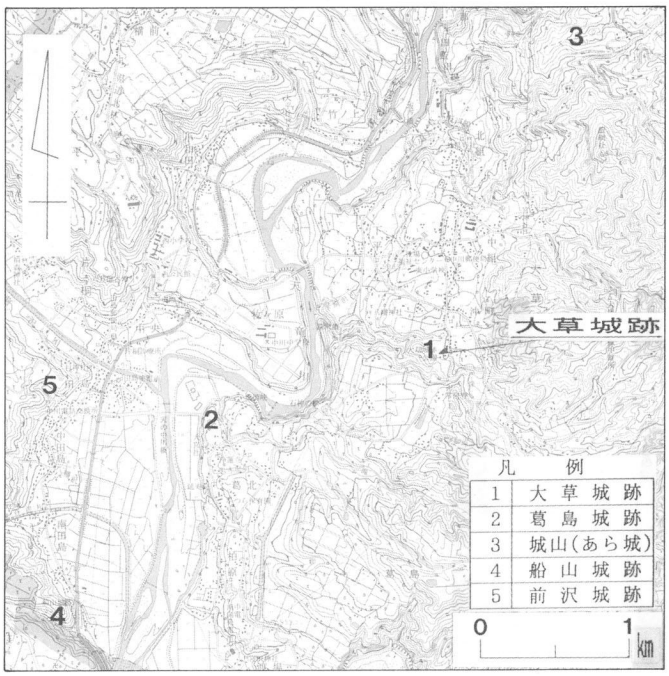
戦国時代に入り当時の伊那谷の豪族は，数氏あったが互いに勢力争いをしており，その間に甲斐の武田氏は勢力を増大しほとんどが降伏し，武田氏の支配下となった。さらに南進を続けた武田氏も天正３年織田軍との戦に敗れ，その後は没落の途をたどることになる。天正10年織田軍の侵攻により大草城も織田軍の手中に帰した。大草城主香坂宗縁は大草庄三郎入道休斉といい，北条氏直についで徳川家康に帰属した。その後香坂氏も休斉からその子宗澄孫の宗久と移り，この宗久の代に帰農したことが古文書に明記されている。その年代は天正10年から19年の間のことである。天正19年大草郷検地帳に大草城跡が「畑地」として記されており，この時既に廃城になっていたことが明かである。従って史誌に記されているもののみを数えても大草城の歴史は興国５年から天正末期までおよそ250年にわたって存在していたものとみられる。

なお，村内に残る城跡は次の通りである。（６図）

葛島城跡　2　片切氏の支城で，文安年中（1444年～1448年）片切長辰の子久信が居館を営んだとされている。

城山（あら城）　3　和見沢と手取沢の間にあり，口碑によれば狼煙台であったと伝えられているが，下伊那郡史第４巻によれば，南信濃源氏為公の第４子為実の孫飯沼太郎行俊，その子三郎資行２代の山城としての備えであったとも考えられている。

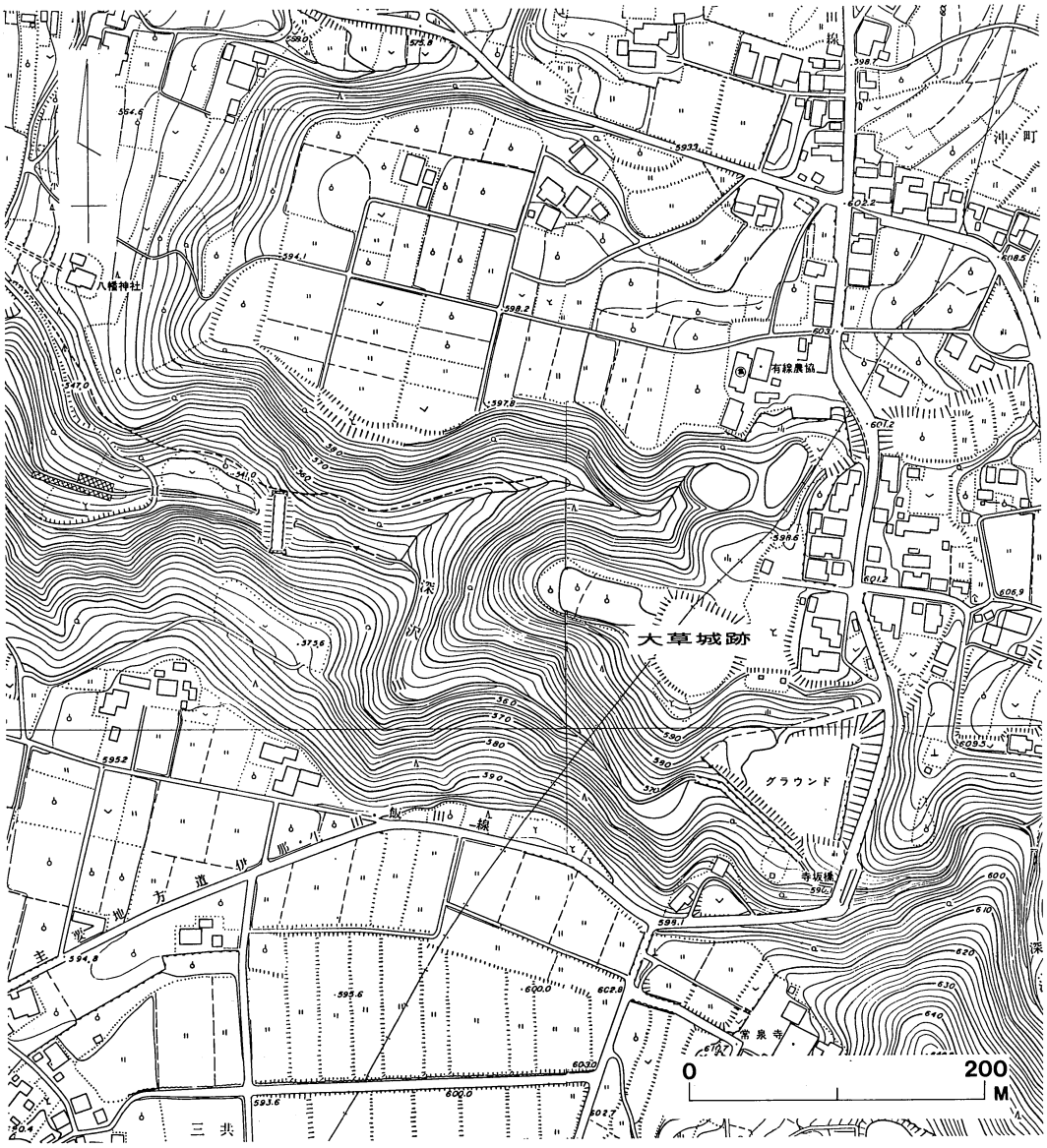
船山城跡　4　平安末期より片切



６図　中川村の城郭位置図

郷を本領としてこの地に居住した片切氏の居城である。片切氏ははじめ中村の地に土着したが中世に及んで社会の状勢に即応し，船山に居城を築いてこれに移り，爾来片切氏の本拠としていた。天険の地を利用し，人工少ない単純な構造で，中世の築城であることを示している。

前沢城跡　5　田島平西方の台地端に所在し，尊卑分脈によれば，片切為遠の子に長清があり，その子源太長頼は承久の乱で京都で死し，その弟源三郎盛友が前沢氏を称している。本城は片切氏の支城として前沢氏の居城であった。



7図　大草城跡の地形図

第Ⅲ章　遺構と遺物

第１節　調査の概要

大草城は，伊那山脈の西麓天竜川の左岸第１段丘にあたる。この段丘を天竜川の下降作用によって東西に深く削り込んでＶ字形の谷をつくり，段丘面をいくつかのブロックに分断している。城跡の台地は深沢川とその支流に挟まれて削り残された自然の要害である。城の位置する標高は，主郭（本丸）で604.33ｍ・西の郭（出丸）600.80ｍ・北の郭（二の丸）598.20ｍの高さにある。深沢川との比高は44ｍあり，その傾斜度は33度と相当な急勾配で自然の要害をなしている。また，西の郭（出丸）の北面はさらに急斜で40度を測る。北の堀は深沢川の支流の洞が掘削して作った自然の堀で，この堀も38度と急斜面をなしている。大草城はこうした自然地形を巧みに活用して作られた城郭である。

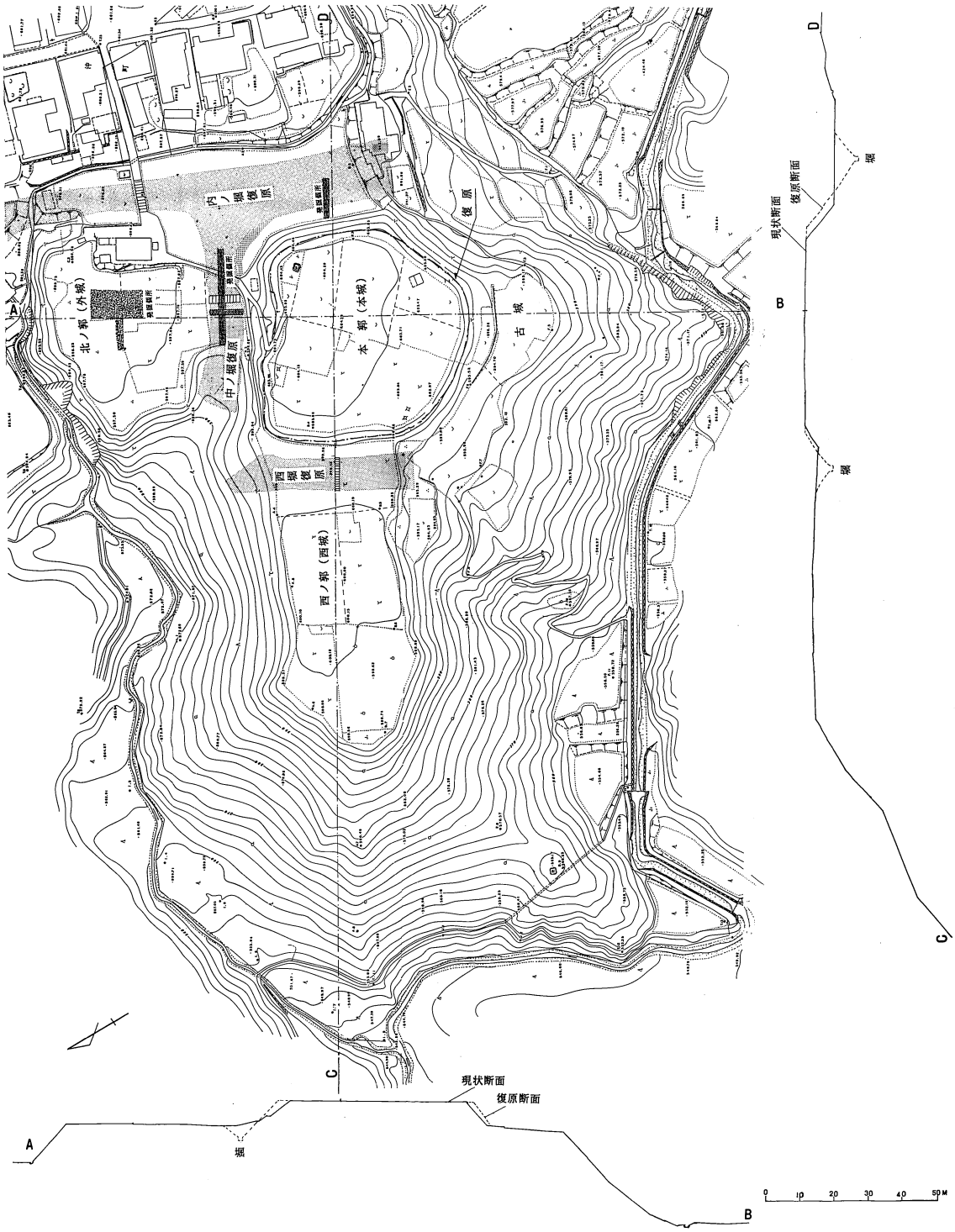
今回の調査では，掘立建物址９棟・鍛冶屋場・竪穴２基・土坑１基・暗きょ排水３基，遺物は中世陶器，及び近世陶器・鉄製品・石うすなどが出土した。

第２節　大草城跡（１図～11図）

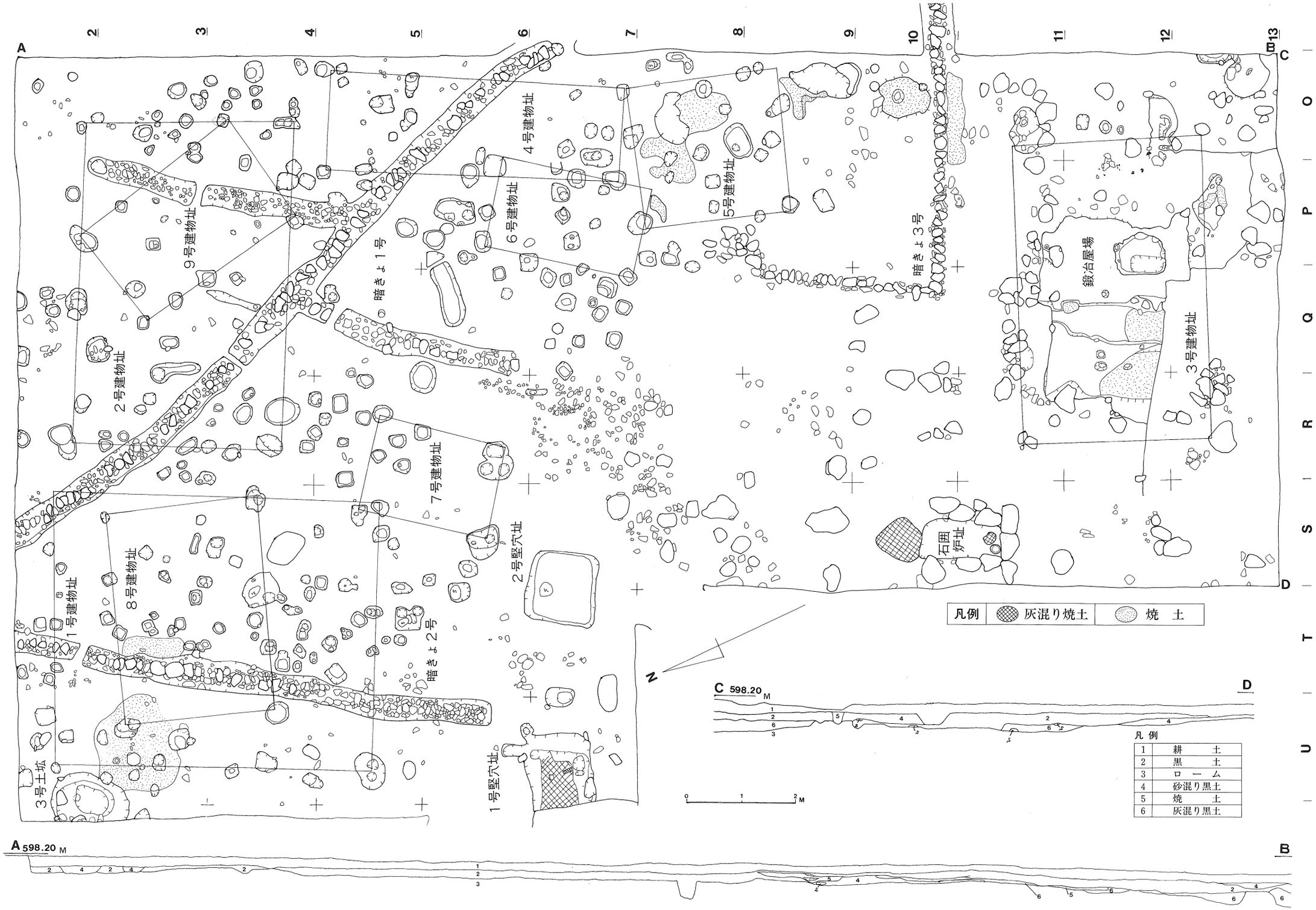
主郭（本丸）　主郭は一段と高く，一見して城郭の中心と考えられる程整備され目につく郭である。郭の面積は，25.1アール（２反５畝１歩）楕円形で南西にわずかに傾斜しているが，ほぼ平坦である。この郭は地質調査でわかったのであるが，かつては天竜川の第一段丘面であったので，この郭の面も段丘形成当時からほぼ平坦であったのではなかろうか。天竜川の運んできた礫の堆積状態といい，その上に堆積した御岳軽石Pm−1が乗っていることから約８万年前であることが確認され，更に最上部の火山灰やＡＴが約２万年前に降下して堆積を終了している。このことは，主郭は土を盛り上げて作ったものでないようである。今回の調査では地形の変動は行わないと言う条件であったので，いままで耕作してきた方々に耕作の状態で知り得た限りの情報によって記録することにした。耕作中には場所によって人が持つにはかなり重い石が出土した所があった。一時果樹を植えて深く掘った所もあると聞いている。また，耕作者の話ではあまり城らしき建物はなかったのではないか。土器や石器の破片はよく出たという話であった。話を聞いた方々は，お城と言うと近世の立派なお城の考え方があるので，城らしい城ではなかったかのように考えられたものであろう。

今回の調査で特記すべきことの一つに，主郭の周辺を２～３ｍの幅に切り崩して堀を埋めた事実が判明したことである。かつては現在より周辺は約２～３ｍ程大きかったが，切り取られて現在の広さになったのである。この切り取られたことが判明したのは，現在のわんぱく広場の長い滑り台をおりた所附近の断面に古い堀形が残っていたことから，後世において埋められたことを知り得たわけである。

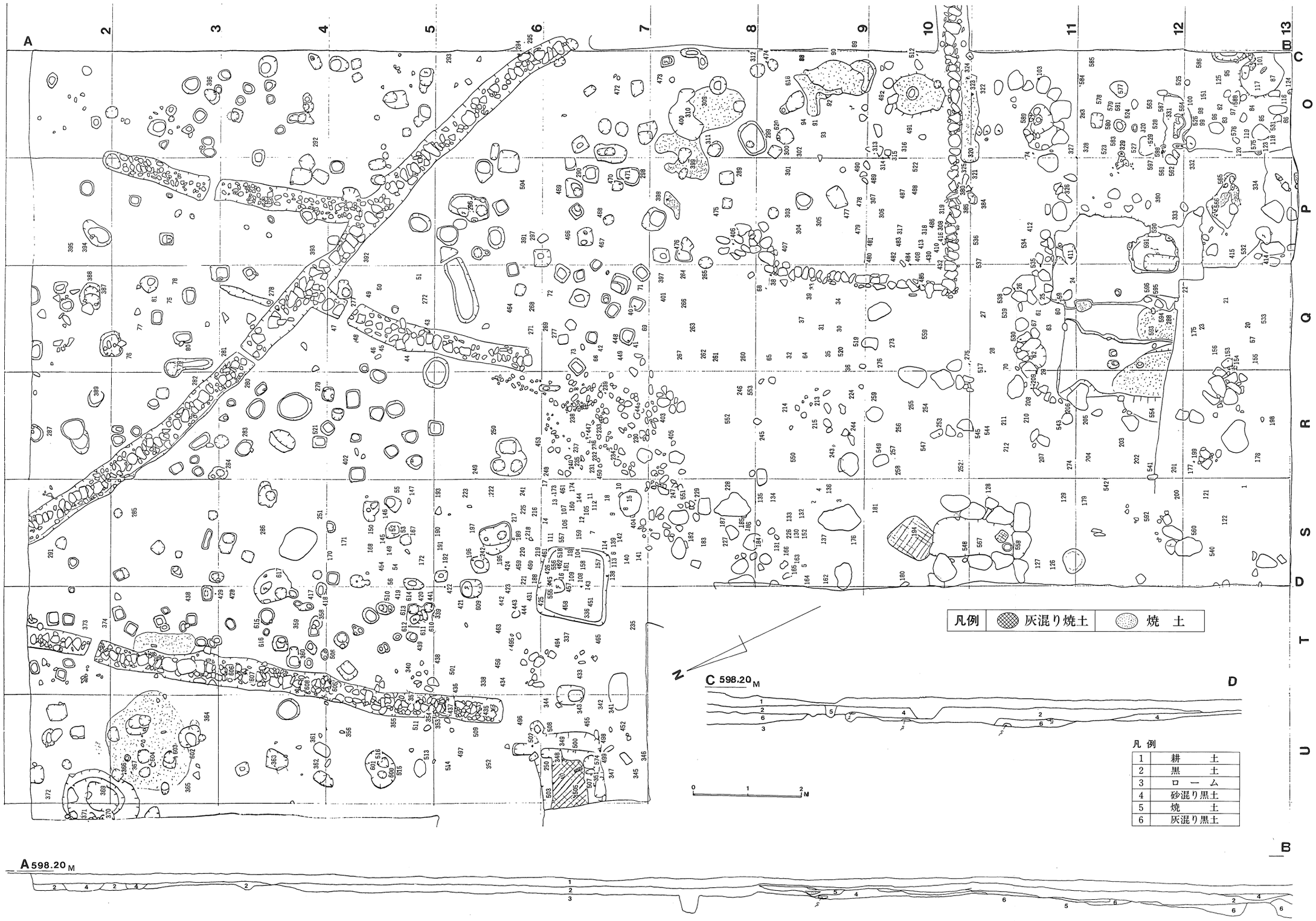
また，表採によって得られた遺物は，内耳鍋・擂鉢・灰釉陶器・天目茶碗・中国青磁・大平鉢・



8図　大草城跡の発掘区及び復原予想図



9図　大草城跡遺構配置図及び発掘個所断面図



10図　大草城跡出土遺物配置図及び発掘個所断面図

鉄鏃・燈明皿・染付など14～18世紀代の遺物が採集された。

西の郭(出丸)　主郭の西に当たる位置にある郭で，主郭より４～５ｍ低い。郭の面積は22．77アール(２段２畝)で主郭よりややせまい郭である。この郭は主郭よりも後に形成された地盤で，地形的には現況と同じ形態をなしていたようにも考えられる面がある郭である。西の郭と主郭との間には堀が設けられていたが，他の堀と同様埋められてしまって，北と南の端にわずかに堀の名残を止めているにすぎない。

調査当時はこの郭も現況のまま保存する予定であったので，分布調査も行なわず表面採集程度で止ることにした。この郭には周囲に土塁などは残っていなかったが，かつては西郭には土塁が存在しなかったかもしれない。この郭からは中国青磁・天目茶碗・茶うすなどが発見されているところより，茶をたしなむ程の人々が住んでいたことを物語っている。

北の郭(二の丸)　この郭は発掘調査が行なわれた郭である。調査の結果は掘立建物址９棟，そのうち２棟は住居に使用された建物と考えられるが他は物置・倉庫などに用いられた小建物であったらしい。しかし，数多くの柱穴と考えられるピットが発見されているところから，かなり長い期間住居した可能性は十分考えられるので，その間何回となく建て替が行なわれたものと考えても良いようである。今回の発掘調査で特に考えられることは，鍛冶屋場を主体にした郭であったことである。検出された遺物の中には，中世の武具である鉄鏃をはじめ，刀子の破片や刀の飾金具・槍先の破片や，ロクロ・鎌などが検出されているところから，武器の製造所的な施設であったかもしれない。また，そのほかに，鋳型や坩堝そうして多量の鉄鐸(鉄くず)がかなり広い範囲から発見されているところより，そこには専門の鋳物師が住居していたことも考えられる。以上発掘の成果より，この郭の一部には城に関係した職人が或る時期は住居したことは確かである。また鉄製品のほかに中国産の青磁・窖窯期の灰釉陶器類・鉄釉の天目茶碗や擂鉢・大窯期「祖母懐壷」・江戸時代灰釉徳久利・染付の皿・碗などが検出された。これらの出土遺物からして，伝世品はあるとしても14世紀より18世紀に至る陶磁器が存在していることを確認出来たことは発掘の大きな成果であると言わなければならない。

北の郭(二の丸)の地形・地質

古くは主郭（本丸）と同様天竜川第１段丘面であったのであるが，その後天竜川の下刻作用によって掘り込み，次期段丘面である北の郭の面が形成された。この面を大草城の築城の時期に整備し利用したものと考えられる。この郭の地形は実測図で見るように北側が高く南側に向かってゆるやかに傾斜している地形である。また，この郭の地質は堅い砂質の粘度層が地表下30～50Ｃ内外に分布していることより，建物が立てられたと思われる個所には，暗きょ排水を設け，城に関わった時代に住居地として利用されたことが，今回の調査で確認することができた。

そのほかに，北東の隅に小高い所があり小祠があった。この小高い所は「土塁」の一部が残された個所ではとも考えてみた。最後になってしまったが，この郭は小高い所にありながら排水が悪い所で，雨が降ると二日位水はけが悪く発掘が出来なかった。このことは，発掘現場に何本かの暗きょ排水が設けられていることで理解できた。この場所が地質的にかなり厚い粘土層が遺構の直下にあるところから，暗きょ排水を設けなければならなかったのであろう。

古城腰（古城郭）　主郭の南側一段低い所にある郭である。発掘当時は細長い郭で面積は７アール程で畑と竹藪になっていた。腰郭的な郭であるが，古城という地名が近くにあることから，大草城の創立に関係する郭として注目したい場所である。この郭からは大草城出土の中でも古い方の遺物が採集されているところより，大草城の創立にかかわる郭かも知れない場所と考えられる。

土塁　主郭の北東の隅にやや小高い所があり，そこに小祠が祭られている。最初は土塁の残りかと考えていたが，後世主郭周辺を切り崩して堀を埋め立てたことがわかってきたので，もしあったとしても，おそらく残らなかったのではないか。また西の郭の西南の隅の土塁と考えられている個所も土塁と断定するには問題であるとする見方もある。そのほか北の郭の北東の隅に小高いところがあり，そこに八幡社が祭られているが，その個所が土塁ではないかと考えて調査してみたが，そうではなく社を造るために築いたと考えた方がよいようである。こうして，大草城の土塁について調査してみたが，ついに土塁の存在を明かにするに至らなかった。

井戸　大草城には現在のところ分かっている井戸は，今回調査された個所の鍛冶屋場の南と内堀と中の堀とが交わる南側主郭に接した場所にあり，古くより大草城の井戸といわれて親しまれてきた場所があったが，調査するときには既に埋まってしまっていたが，大方の場所は知ることができた。

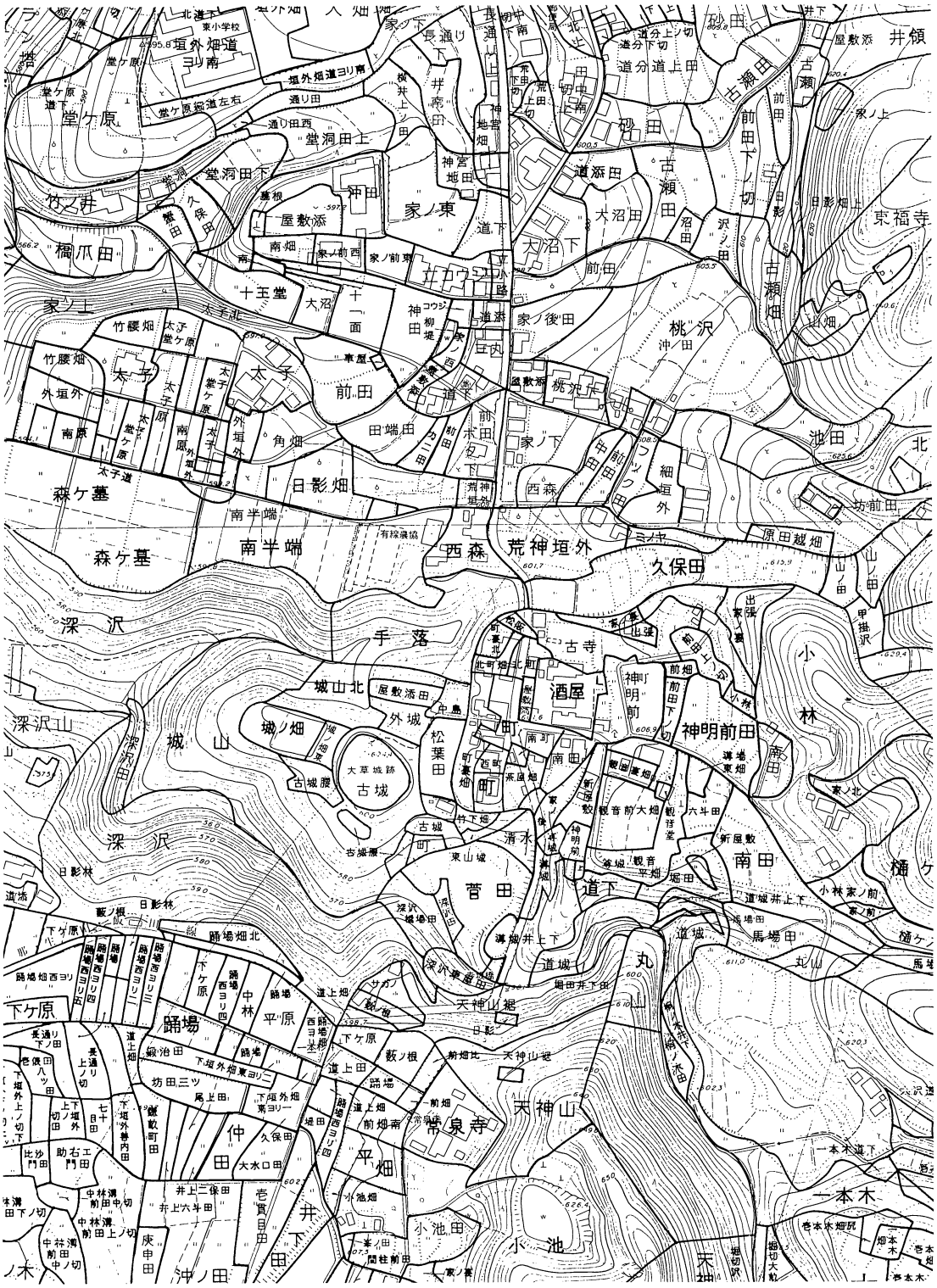
大手　大草城には大手という地名は残っていないので，大手の位置を明かにすることはできないが，現在城の向きから考えて「村道大草桑原線」が曲がる秋葉神の碑が建てられている所か，または今の城跡の出入り口のあたりかは，現在のところ明かにすることはできない状態である。

堀（８図）　大草城の堀について，現在までの調査で確認されている堀は，城の東190ｍの傾斜変換地点南北に総堀が設けられていることが調査で分かってきた。この堀は，南側は深沢川に掘り抜られている。北は酒屋の東から古寺・出張・家裏で深沢川の支流である洞に抜けている。堀は総延長170ｍ，上幅で５～６ｍと推定されるが，現在は殆ど埋没されてしまっている。おそらく大草城の外堀と考えられている。

「内ノ堀」　この堀は主郭と北の郭と字町との間の凹地を利用して設けられた堀と考えられる。堀は実測図に示されているように，南は深沢川に掘り抜かれている。北側は深沢川の支流の洞に掘り抜かれている延長120ｍ，上幅９～15ｍ，深さは平均４～５ｍと推定されている堀で，大草城の堀としては大型の堀である。

「中ノ堀」　この堀は主郭と北の郭との間に設けられた堀で，東側は内の堀と通じ西は北の郭と西の郭との狭い部分に切り抜かれている堀で，今回のトレンチを設定して確認することができた堀である。北の郭と主郭との間は土橋で結ばれていたようである。堀の延長は55ｍ，上幅10ｍ，堀底1.5ｍ～2.0ｍ，深さ４～５ｍ内外を測る。

「西ノ堀」　この堀は主郭と西の郭との間に設けられた堀である。堀は南側では深沢川に掘りきられている。北側は中ノ堀の西端の位置に合流した形となって掘り抜かれている堀で，堀の延長は53ｍ内外と考えられる。堀の上幅は推定であるが７ｍ内外，深さはこれも推定であるが掘り抜かれている北側の断面から３～４㎝ぐらいはあったように考えられる。



11図　大草城跡附近の小字図

「三ケ月堀」　といわれる堀が所在したことの言伝があるが，調査の段階では確認することができなかったが，あるいは，中ノ堀・内ノ堀と主郭との三角地形の所に古井戸があったところから，その周辺に三ケ月堀なるものがあったかも知れないが，さだかではない。

地名　大草城に関係すると考えられる地名を記してみると，（11図）

「古城」　は内の堀の南端の位置に古城という地名が残っている。また主郭も古城となっているところから，この附近が大草城の創建に深くかかわっている場所ではないだろうか。

「東山城」　という地名は現在グランドになっている北の傾斜地である。

「外城」　は主郭の北に当り，今回発掘調査が行われた個所に当っている。

「導城」　はグランドの東側，県道伊那生田飯田線の東に当る地籍。また道城という地字を当てた地名もある。そのほか丸山の東にも導城という地名がある。

「山城・山城北・城の畑」　という地名は西の郭の西や北に残っている。

「屋敷」　にかかわる地名としては，外城の北側に屋敷添田，大草桑原線に添ったところに新屋敷という地名がみられる。この地名は屋敷があったことを物語る資料となる。

「　町　」　に関した地名としては，町・町裏・西町・北町・南町・町裏北などの地名が見られる。この町という地名がついたのは，戦国時代以後と考えられ、それ以前は屋敷であったものと考えられる。

「　堀　」　という地名はただ一個所村道大草桑原線の観音堂の南に「堀田」という地名があるだけである。

「家の裏」・「家の後」　など家敷にかかわっている地名もある。

「馬場田」　という地名があるが，大草城に関係している地名と考えられている。

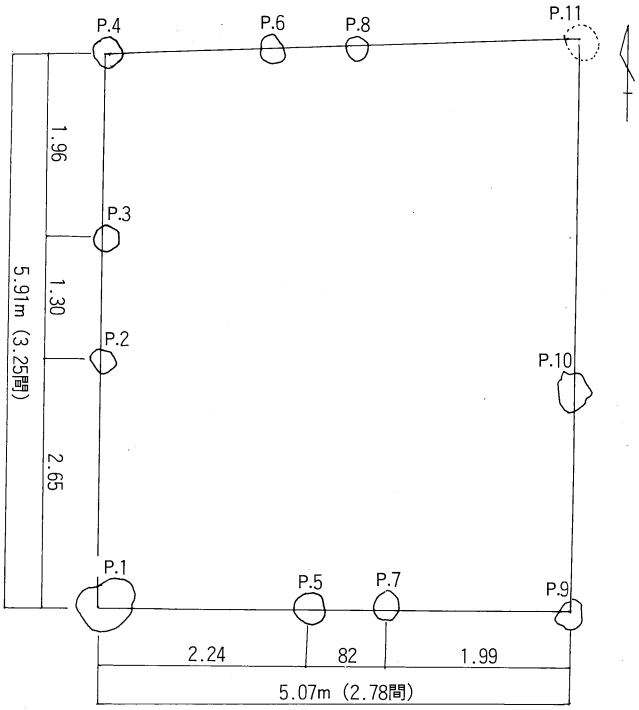
第３節　掘立建物址　（10図・12図・13図）

第１号掘立建物址（12図）　本址はＳ～Ｕ－２～５グリッド内に発見された遺構である。遺構の主軸の方向は，ＮＥ－１度の方向に向かっている。建物の規模は東西5.07ｍ，南北5.91ｍ，面積は29.96㎡（9.05坪）の広さの建物址である。柱穴は径20～30㎝内外で，Ｐ１～Ｐ11が柱穴と考えられる。屋根構造茅葺切妻妻入と考えられる。

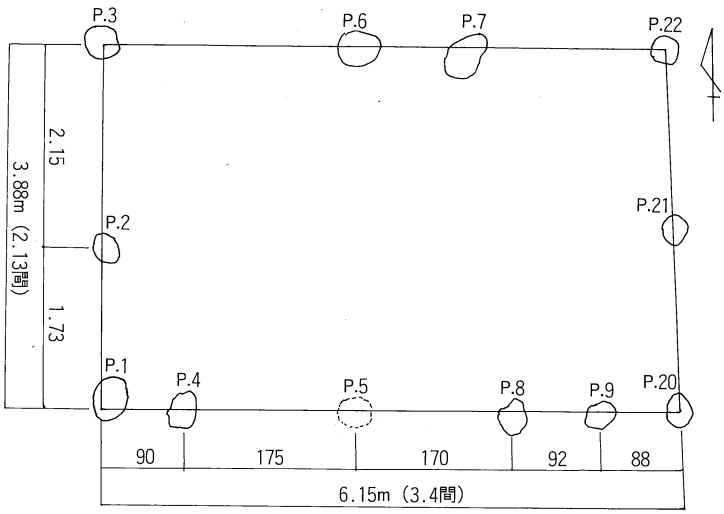
第２号掘立建物址（12図）　本址はＯ～Ｒ－２～４号グリッドに発見された遺構である。遺構の主軸の方向はＮＥ－２度30分の方向を向く。建物の規模は，東西6.15ｍ，南北3.88ｍ，その面積は23.86㎡（7.21坪），茅葺切妻平入の建物址であったと考えられる。

第３号掘立建物址（13図）　本址はＯ～Ｐ－11～13グリッドに発見された遺構である。遺構の主軸の方向は，ＮＷ－２度15分の方向を向いている。建物の規模は東西5.77ｍ，南北3.69ｍ，その面積は，21.29㎡（6.43坪）遺構は茅葺切妻平入の建物と考えられる。

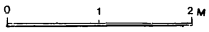
第４号掘立建物址（13図）　本址はＯ～Ｐ－５～７グリッド区に発見された遺構である。主軸の



第１号掘立建物址



第２号掘立建物址



12図　第１号・第２号掘立建物址実測図

方向はＮＥ－２度40分の方向を向く。建物の規模は東西 1.82ｍ，南北 5.53ｍを測る。その面積は10.06㎡（3.04坪），建物は茅葺切妻造り妻入で物置に使用された建物と考えられる。

第５号掘立建物址（13図）本址はＯ～Ｐ－７～９グリッドに発見された遺構である。遺構の向きＮＥ－９度40分の方向である。規模は東西 2.66ｍ，南北 2.76ｍ，面積は 7.39㎡（2.23坪）の広さの建物で，構造は茅葺切妻妻入で，物置に使用されたと考えられる建物址であろう。

第６号掘立建物址（13図）　本址はＯ～Ｐ－６～８グリッドに発見された遺構である。遺構はＮＥ－11度の方向を向いている建物で，その規模は東西 1.72ｍ，南北 2.82ｍ，建物の面積は 4.86㎡（1.47坪）の広さをもつ建物である。小規模であるところから物置のような建物であったと推測される。

第７号掘立建物址（13図）　本址はＲ～Ｓ－５～６グリッドに発見された遺構である。遺構の向きはＮＥ－11度47分の主軸の方向をもった建物址である。その規模は東西 1.76ｍ，南北 2.50ｍを測る。建物の面積は 4.40㎡（1.33坪）と小規模な建物址である。この建物は茅葺切妻の物置的な建物ではないだろうか。

第8.号掘立建物址（13図）　本址はＳ～Ｕ－３～４グリッド内に発見された遺構である。遺構の向きはＮＷ－５度の方向にある。遺構の規模は東西 4.04ｍ，南北 2.74ｍを測る。その面積は，11.06㎡（3.34坪）の小規模の建物である。建物は茅葺切妻妻入の倉庫のような建物であったのではないかと考えられる。

第９号掘立建物址（13図）　本址はＯ～Ｑ－２～４グリッド内に発見された遺構である。この遺構の向きはＮＷ－38度の方向を向いている。規模は東西 2.20ｍ，南北 3.41ｍを測る。面積は，7.50㎡（2.27坪）茅葺切妻平入の倉庫的な建物ではないかと思われる。またこの区画内には多くのピットが検出され，４・５・６号建物址と一応考えてみたが，それだけではなく長い間に建替が行なわれたので，こうして多くのピットが設けられたのではないかと考えられる。

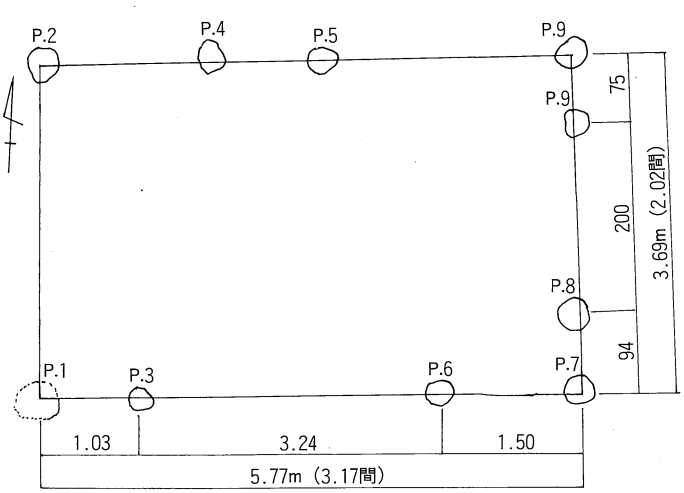
遺物　鉄鋒，古銭，窖窯で焼かれた陶器，大窯で焼かれた陶器，№263の天目茶碗（19図22），№470の登窯の鉄釉香炉（21図53），大窯期の茶碗等が検出された。

第４節　その他の遺構（14図～17図）

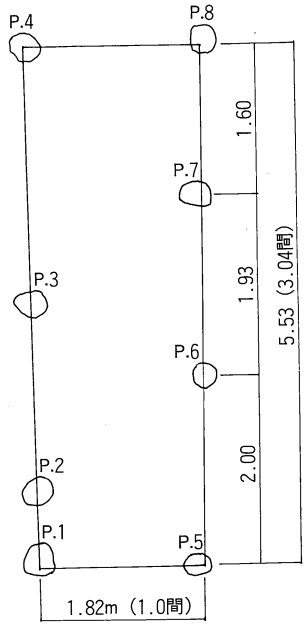
第１号竪穴址（14図）　本址はＵ～Ｖ－６～７グリッドに発見された遺構である。規模は東西に 1.4ｍを測るが，西側は用地外であるため調査は行なわなかったが，西に拡大されるものと考えられる。南北は 1.2ｍの土坑であり，内部は二段に作られ，その南側には２個のピットが作られていたが何に使用されていたかは不明である。床面は厚く灰の層が堆積していたところから，一般的な竪穴と異なった遺構であると考えられる。

遺物としては，№574の灰釉の小型徳久利の完形品（23図69）18世紀などが出土した。

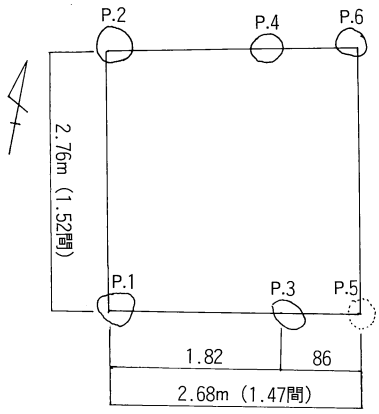
第２号竪穴址（14図）　本址はＳ～Ｔ－６～７グリッドに発見された遺構である。規模は東西に 1.46ｍ，南北 1.32ｍ，深さ 0.58ｍの方形の竪穴址で，内部には小ピットが１個認められた。



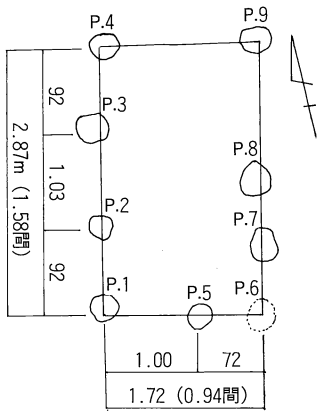
第３号掘立建物址



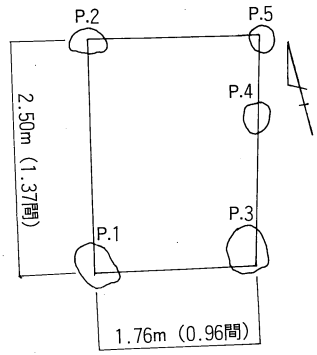
第４号掘立建物址



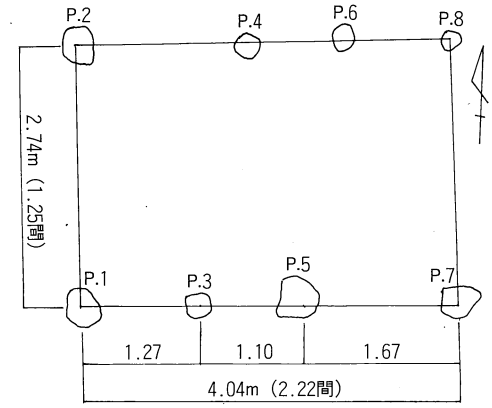
第５号掘立建物址



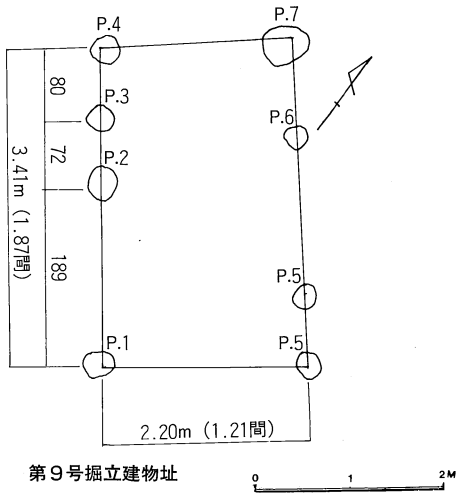
第６号掘立建物址



第７号掘立建物址



第８号掘立建物址



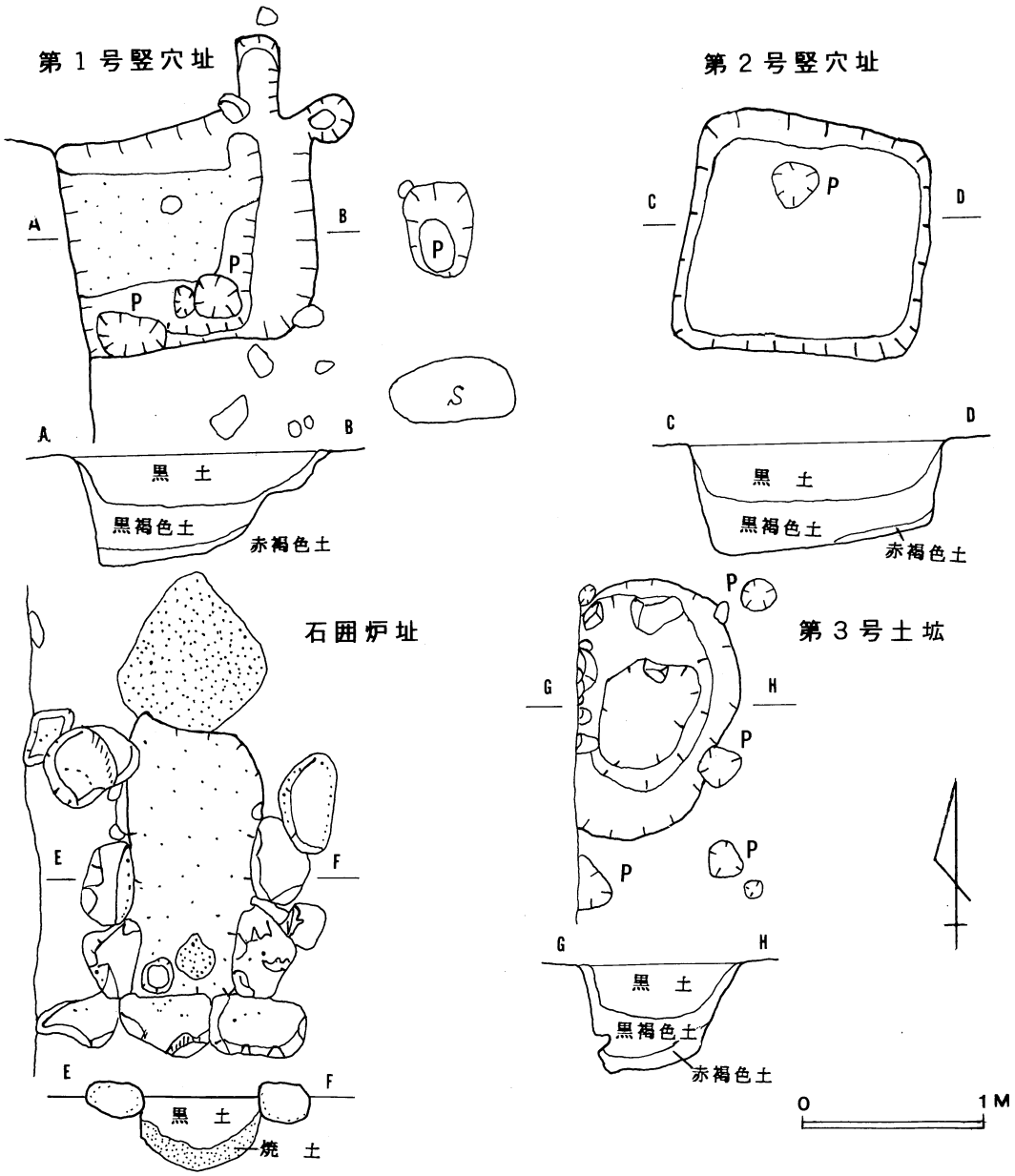
第９号掘立建物址

13図　第３号～第９号掘立建物址実測図

遺物は№426の窖窯期のおろし皿（20図24）が発見された。

第3号土坑（14図）本址はU～V－2～3グリッドに発見された遺構である。規模は東西90cmを測る。西に拡大されるが用地外のため調査はできなかった。南北1.45m，深さ0.59mの楕円形土坑である。土坑内にはこぶし大から頭大の石が多く入っていた。また，土坑周辺には4個の小ピットが検出されたが，土坑と何らかの関係があるものと考えられる。

遺物は大窯期の陶器片，擂鉢（22図63）等が出土した。



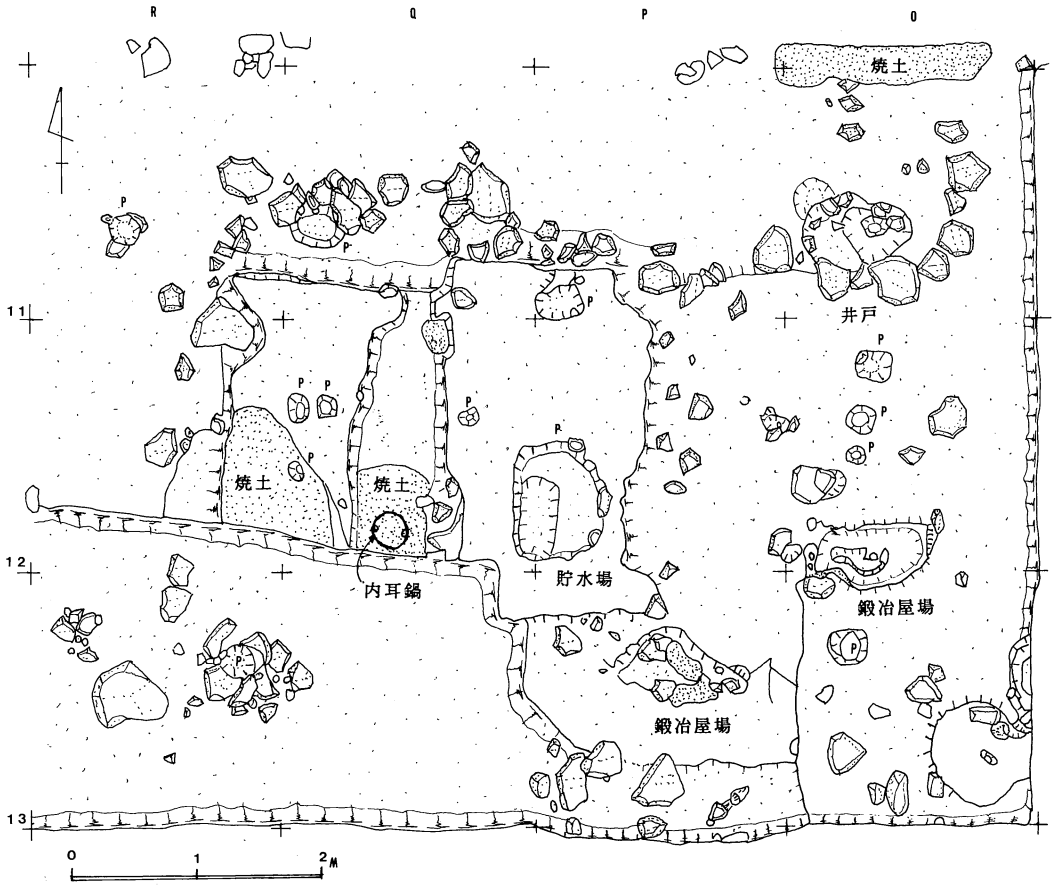
14図　第1号・第2号竪穴址，第3号土坑，石囲炉址実測図

石囲炉址（14図・図版４）　本址はＳ－10～11グリッドに発見された遺構である。規模は，東西1.7ｍ，南北2.0ｍ，深さ0.32～0.40ｍを測る。炉は径30～56㎝内外の自然石を組み合わせて造った炉で，炉内には相当多量の木炭と灰が堆積していた。また炉の北側には70～90㎝，深さ50～60㎝の灰貯穴が設けられていて，この灰貯穴からは多量の灰が貯えられていた。こうした遺構は一般的な住居には認められていないところから，あるいは附近に鍛冶屋場があることから鋳物に関係のある特定な炉址ではないかと考えられる。

遺物は出土番号№548の16世紀青磁碗・№136大窯期の灰釉陶器が出土した。

鍛冶屋場（15図，図版８－３・４）　本址はＯ～Ｒ－11～13グリッドに発見された遺構である。規模は東西７ｍ，南北5.5ｍの範囲に認められた。この遺構内からは鍛冶屋の象徴と考えられる鞴の風道部が二個所と，羽口の破片などが検出されたことにより考えられたのである。

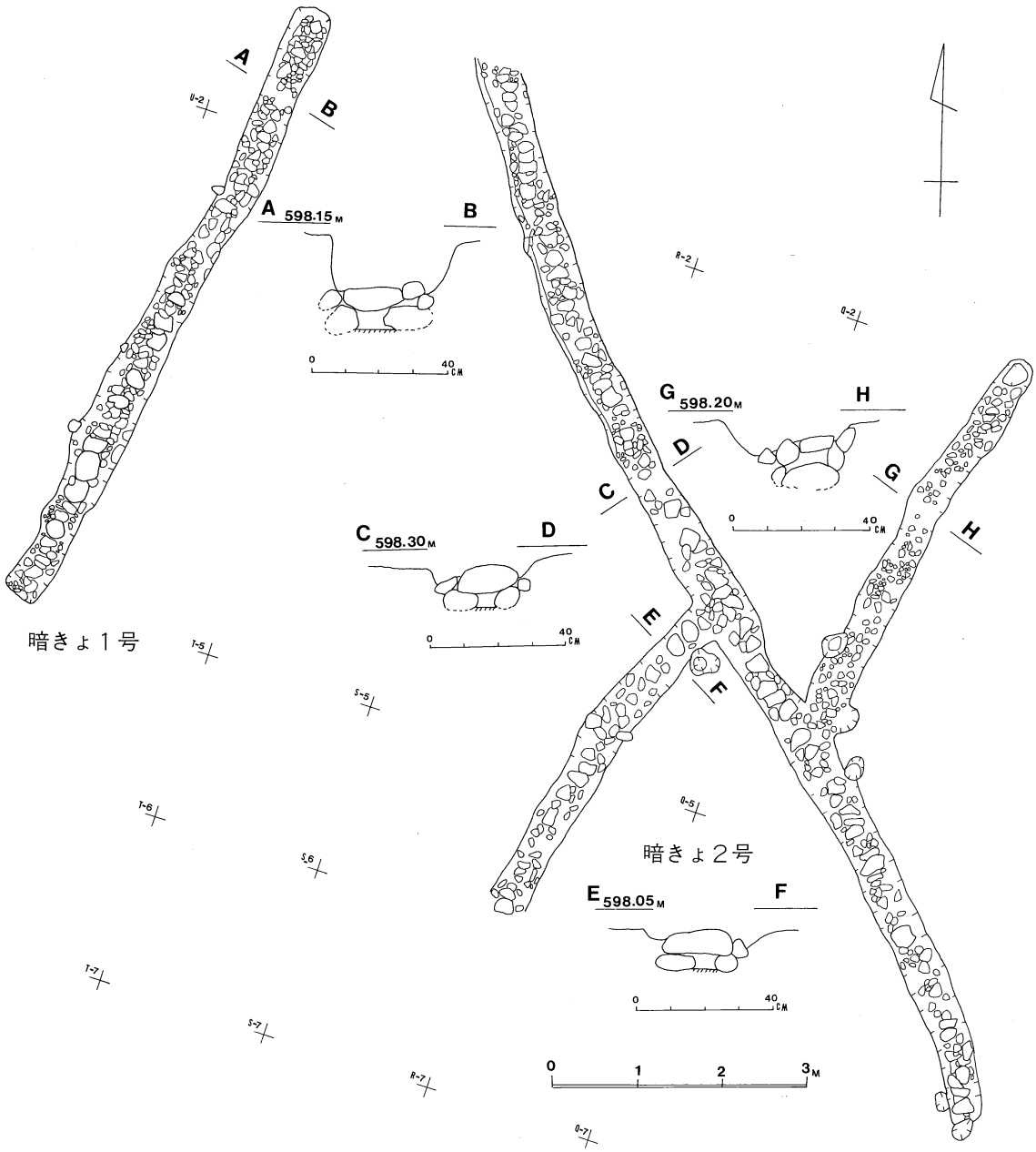
遺物　№119天目茶碗（19図21）窖窯期，灰釉大型の鉢，内耳鍋（23図65・66），鉄鋌，古銭（北宗の至道元宝），№390羽口（24図83），№618鋳型などが検出された。遺物は窖窯期～大窯期のものである。



15図　鍛冶屋場実測図

暗きょ1号・2号（16図）　暗きょ1号はO～S－2～7グリッドに，暗きょ2号はT・U－2～6グリッドにそれぞれ発見された遺構である。何個所か配列の中の石を取り外してみたが，いずれも石の下に排水水路用と思われる空洞が発見できた。

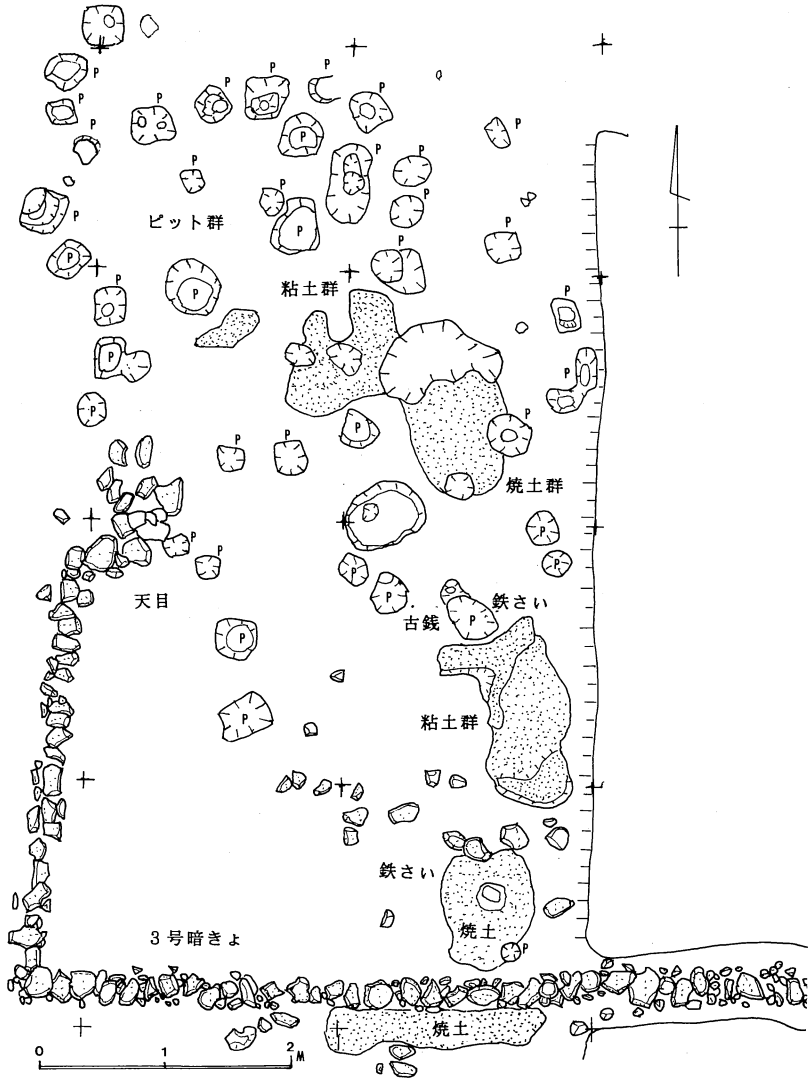
遺物は大窯期の祖母壷が多く出土した。（口絵8）



16図　暗きょ1号・2号実測図

暗きょ・ピット群・焼土群・粘土群（17図，図版２・３・４）　本址はＯ～Ｐ－７～11グリッドに発見された遺構である。規模は東西4.5ｍ，南北8.0ｍにわたる範囲に分布している。この中に粘土質の焼土塊が検出された。また，一般の粘土塊も発見されているところから，粘土を使用する工房があったことが考えられる。

遺物　白磁小皿（18図11），№89天目茶碗（19図19），№490鉄釉香炉（21図43），№407の鉄釉瀬戸天目16世紀，№94元祐通宝〔北宗1093年〕(25図３)，№74至道元宝〔北宗995年〕（25図２），そのほか鉄片などが出土した。



17図　暗きょ3号・ピット群・焼土群・粘土群実測図

第５節　出土遺物

〔注:遺物実測図の番号　右下;出土遺物一覧表No.　中央下;遺物No.　左下;挿図No.〕

青磁　（18図，口絵５，図版９）

1　中国青磁。　鉢，主郭表採である。大きさは，口径29.8cm，口縁部破片のため底部や高さは不明。口縁は段状折り反，内面に縞蓮弁文が施されている。釉は灰黄色を呈しており，窯は中国竜泉窯で，時期は14世紀末と考えられる。（口絵５－８）

2　青磁碗。Ｓ－10グリッド出土。大きさは口径14cm，口縁部の破片のため底部や高さは不明。口縁部はやや内反り，外側の口縁下に花文が施されている。時代は16世紀，窯は中国竜泉窯。（口絵５－２）

3　青磁碗。出土位置はＲ－11，大きさは，口径12.1ｍ，口縁部はわずかな玉縁をなす。釉は浅い灰青色で，時代は15世紀，竜泉窯。（口絵５－３）

4　青磁碗。出土位置Ｑ－11グリッド，大きさは口径14cm，口縁部はやや内湾して立ち上る。外面に印花文が施されている。釉は灰青色，時期は16世紀竜泉窯のもの。（口絵５－１）

5　青磁碗。出土位置Ｓ－７グリッド，大きさは口径12cm，口縁部ややくびれ直立する。釉は灰青色，時期は16世紀，竜泉窯。（口絵５－４）

6　青磁。器種不明，出土位置Ｑ－13グリッド，大きさは口径17.0cm，口縁部外反，釉は灰青色，時期は16世紀代の中国陶器と考えられる。

7　青磁。出土地点はＳ－６グリッド。底部の破片であるので口径は不明であるが底部の径は推定であるが6.0cm，付高台，釉は灰青色で高台部分まで施してあるもので，底部内のみ釉をかけていない。窯は竜泉窯産14世紀明の時期のものと考えられる。（口絵５－13）

8　青磁。出土地点はＰ－13グリッド，口径17cm，口縁部外反するもので器種不明。釉はやや浅い灰青色を呈している。産地及び時期不明。（口絵５－５）

9　青磁。出土地点はＳ－10グリッド。碗の底部破片，付高台，釉は灰青色で高台部分まで施してある。底部内のみ無釉，底部径5.6cm。産地は竜泉窯，時期は15世紀（口絵５－14）

10　青磁。出土地点はＵ－７グリッド。大きさは口縁部で，15.8cm，やや外反する碗形と考えられるもの，産地及び時期不明。（口絵５－12）

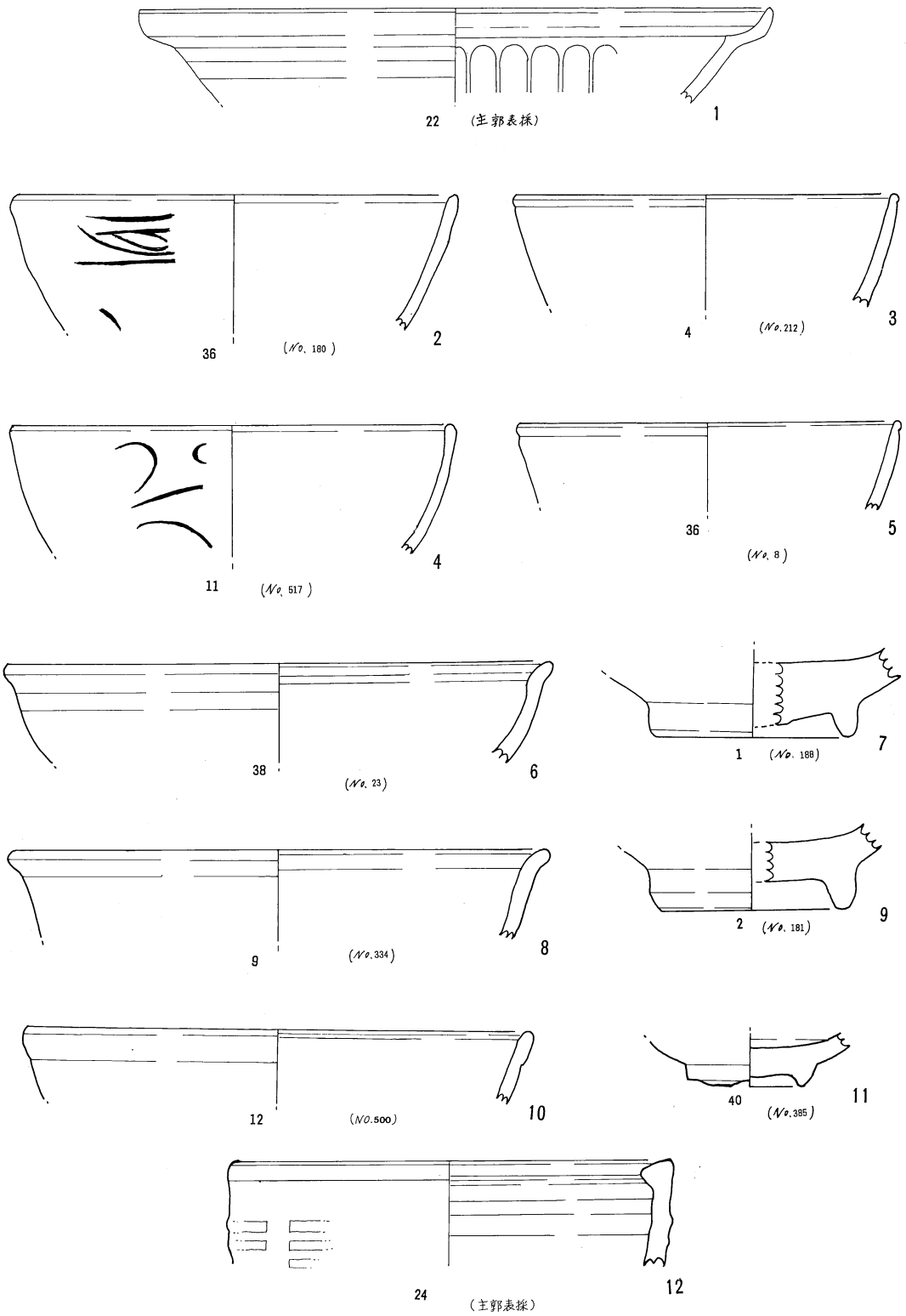
11　中国白磁。出土地点はＰ－10グリッド，小皿。時期不明。

12　青磁。出土地点は主郭表採，算木文の香炉，大きさは口径13.8cm，時代は14世紀（明）竜泉窯。（口絵５－６）

天目茶碗　（19図，口絵６・７，図版９・10）

13　天目茶碗は腰部を除いて全面に鉄釉が施されている。大きさは口径約12.3cm，底径約4.0cm，高さ約７cmと思われる復原品。口縁部は内湾し口端にくびれがあり，焼成良好である。Ｓ－12グリッドで出土したもの，時代は窖窯期と考えられる。（口絵７－１・図版９－２）

14　天目茶碗，Ｓ－13グリッド出土の復原品。鉄釉が高台部分を除いて施され，大きさは口径12



18図　出土遺物実測図　青磁（1　1:3・2～12　1:2）

底径4.2，高さ6.7㎝，高台は轆轤で内反。口縁部が折れて立ちあがる。窖窯期。（口絵7－3・図版9－1）

15　天目茶碗でP－12グリッド出土したもので鉄釉が腰部を除いて全面に施されている。高台部は無釉。大きさは口径11㎝底径3.8㎝高さ6.8㎝，復原品。窖窯期。（口絵7－2）

16　天目茶碗でQ－11グリッド出土。大きさは口径12.0㎝あり，底径4.5㎝高さ7.1㎝と思われる復原品。口縁は折れて内湾。鉄釉が高台部分を除いて施されている。時代は窖窯期。（口絵7－4・図版9－3）

17　天目茶碗。出土地点はQ－11グリッドとされている。鉄釉が腰部と高台部分を除いて全面に施されている。大きさは口径12.3㎝，口縁部は折れるようにして立ち上る。時代は窖窯期。（口絵6－4・図版10－12）

18　天目茶碗。Q－8グリッド出土。口径は12㎝，鉄釉，口縁部はやや内湾で立ちあがる。窖窯期。（口絵6－2・図版10－15）

19　天目茶碗。O－9グリッド出土。口径は12㎝，鉄釉，口縁部はやや内湾で立ちあがる。窖窯期。（口絵6－5・図版10－14）

20　天目茶碗。T－5グリッド出土。口径は12㎝，鉄釉，口縁部は折れ立ちあがる。窖窯期。（図版10－8）

21　天目茶碗。出土地点はO－13グリッド。口径は11.4㎝，鉄釉。窖窯期。（口絵6－3・図版10－16）

22　天目茶碗。Q－8グリッド出土。口径は13.2㎝，鉄釉，口縁部は折れて立ちあがる。窖窯期。（口絵6－1・図版10－13）

23　天目茶碗。出土地点はT－4グリッド。高台径4.5㎝，轆轤篦削内湾。窖窯期。（図版10－11）

灰釉　（20図　口絵6，図版9・11・12）

24　灰釉おろし皿。出土地点はS－7とS－8グリッドより，口径32.8㎝，口縁部は外側に折れて縁帯状となり，内面底部に篦刻線を格子状に引いて，おろし目としている。外側無釉部分は大きい轆轤目がのこる。大窯期の産。（図版12－3）

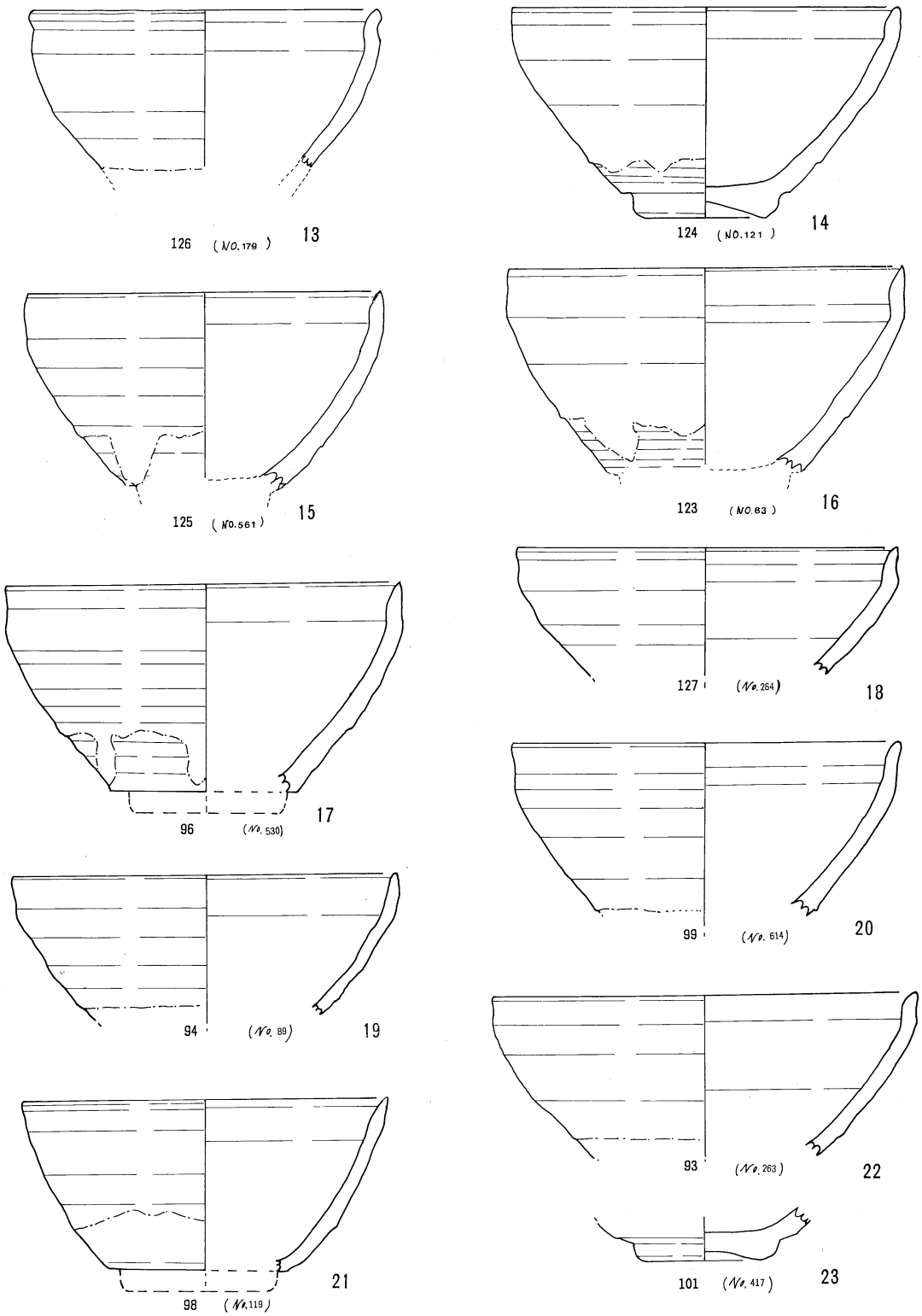
25　灰釉の深めの鉢。P－13グリッド出土。大きさは口径27.8㎝，内外面灰釉が施されている。時期は窖窯。（図版11－7）

26　灰釉仏花瓶。P－10グリッド出土。底部から胴部の破片で底部の径3.5㎝，糸切痕が残る。時期大窯と考えられる。（図版11－13）

27　灰釉平碗。R－9グリッド出土。大きさ径12㎝，灰釉は内全面に施されているが，外面は口縁部のみである。時期は窖窯と考えられる。（図版9－7・11－8）

28　灰釉平碗。P－6グリッド出土。大きさ口径15㎝，灰釉が内外面に施されている。窖窯期。（図版12－2）

29　灰釉平碗。O－11グリッド出土。大きさ口径14㎝，口縁部がやや内湾して立ち上る。腰部に轆轤痕が残る。大窯期。（図版11－3）



19図　出土遺物実測図　天目茶碗（1：2）

30　縁釉皿。R－11グリッドに出土。大きさ口径10.9cm，釉は内面全体に施されているが，外面は縁帯のみに施釉されている。また，内面に重焼のトチンが置かれた痕が認められる。窖窯の製品。（図版11－6）

31　表採。碗と思われる。底部付高台で，底部径5.8cm。大窯期。

32　灰釉平碗。S－9グリッド出土。大きさ口径11cm。大窯期。（図版11－4）

33　灰釉碗。P－11グリッド出土。大きさ口径11cm。口縁は折れて立ち上る。大窯期。（図版11－5）

34　灰釉皿。主郭表採，底部の径4.8cm，削出高台，釉は内面と口縁部のみ施されている。大窯。（図版11－12）

35　Q－12グリッド。縁釉皿，大きさ口径9.6cm，高さ2.5cm，底部径4.2cm，糸切底。復原品。窖窯期。

36　縁釉皿。O－12グリッド出土。大きさ口径10cm。窖窯期。（図版11－10）

37　縁釉皿。Q－3グリッド出土。大きさ口径12.6cm。大窯期。（図版12－6）

38　縁釉皿。S－5グリッド出土。大きさ口径10.5cm，高さ2.2cm，底部径5.3cm，底部は糸切底で復原品。窖窯期。

39　縁釉皿。P－10グリッド出土。大きさ口径9.2cm。窖窯期。

鉄釉　（21図，口絵6・7，図版9・10）

40　小壷口縁部。Q－8グリッド出土。大きさは口径4.0cm。胴径6.5cm。内面にうすい鉄釉が施されている。窖窯末期。（口絵6－9・図版10－9）

41　双耳壷。U－7グリッド出土。大きさは口径推定5.0cm。鉄釉である。大窯期。（口絵6－6・図版10－12）

42　小壷。S－5グリッド出土。大きさは口径5.0cm。鉄釉。大窯II期。(口絵6-8・図版10－10)

43　香炉。O－10グリッド出土。大きさは口径11.2cm。口縁部平で口含が外側に折れる。口縁部外側に鉄釉が施された筒形の香炉である。大窯期。（図版10－9・20）

44　天目茶碗。Q－3グリッド出土。大きさは口径11.0cm。口縁部がわずかにくびれ外反する。大窯期と考えられる。（図版10－7）

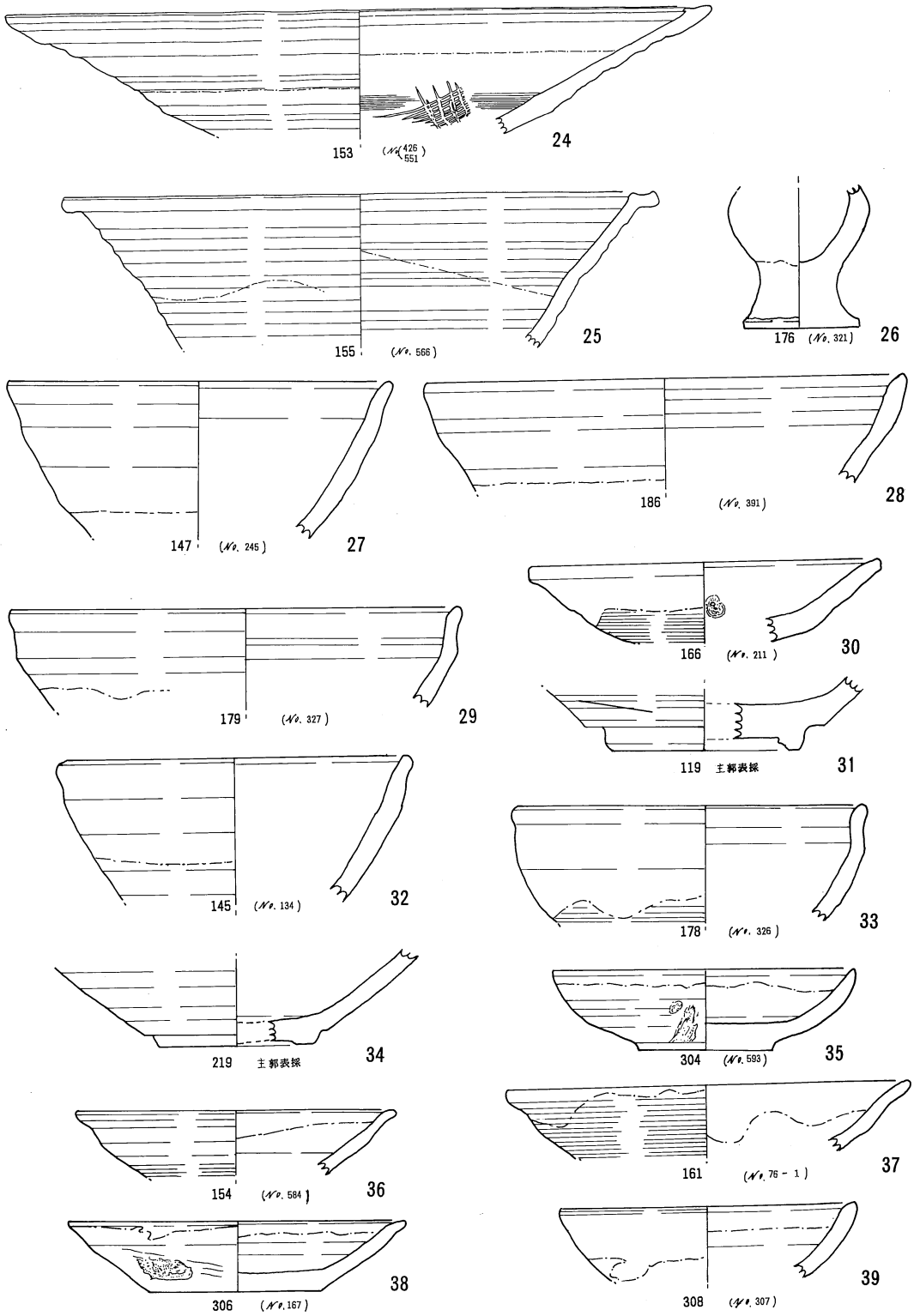
45　天目茶碗。R－3グリッド出土。大きさは口径9.0cm。口縁部内湾してて口含が外反する。大窯期。（図版10－6）

46　天目茶碗。S－7グリッド出土。大きさは口径12.6cm。釉は赤褐色の鉄釉が施されている。窖窯期。

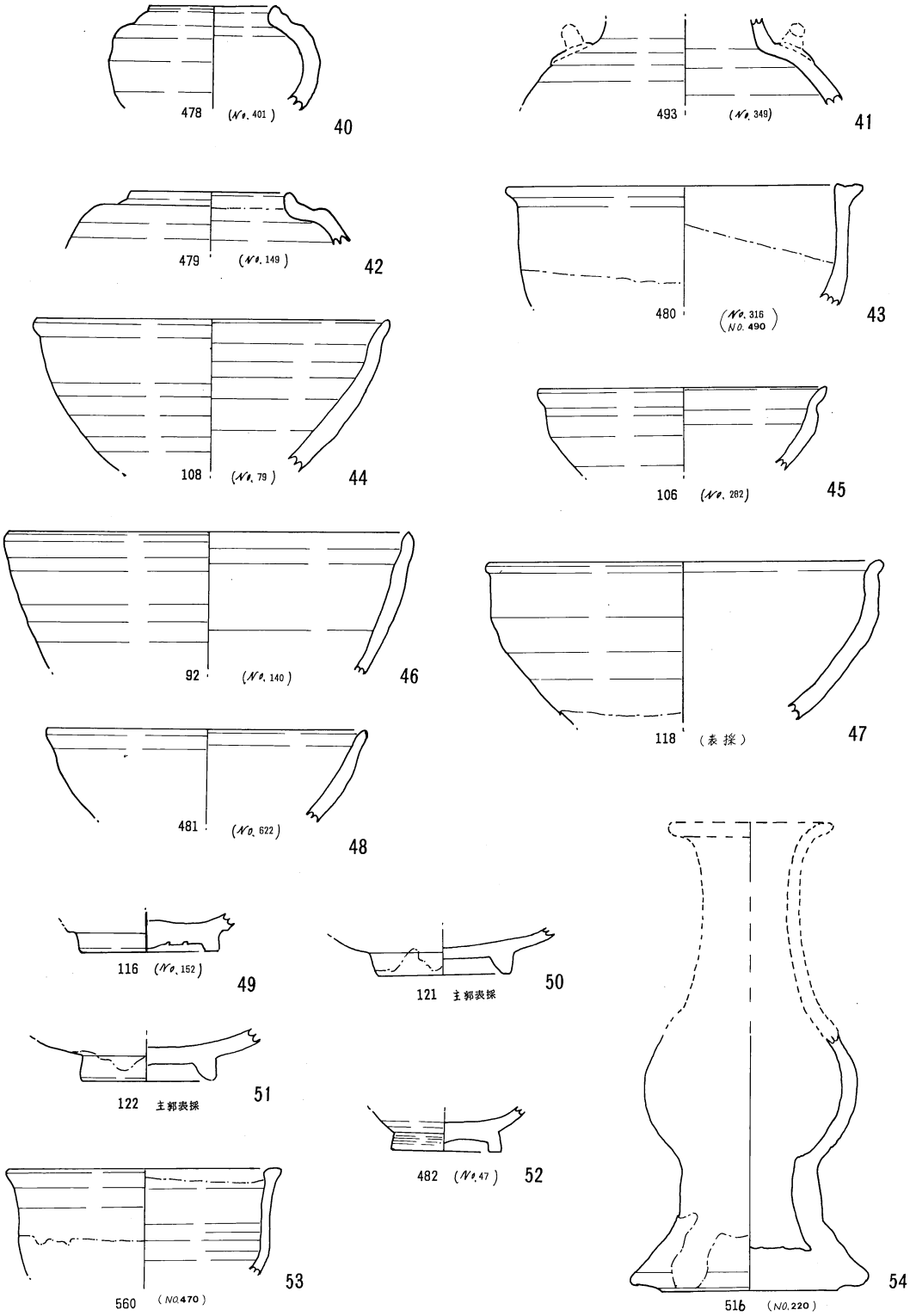
47　天目茶碗。大草城主郭表採。大きさは口径12cm，口縁部内湾し口含が折れ外反する。登窯期と考えられる。

48　天目茶碗。Y－6グリッド出土。大きさは口径10.0cm。登窯期。（図版10－1）

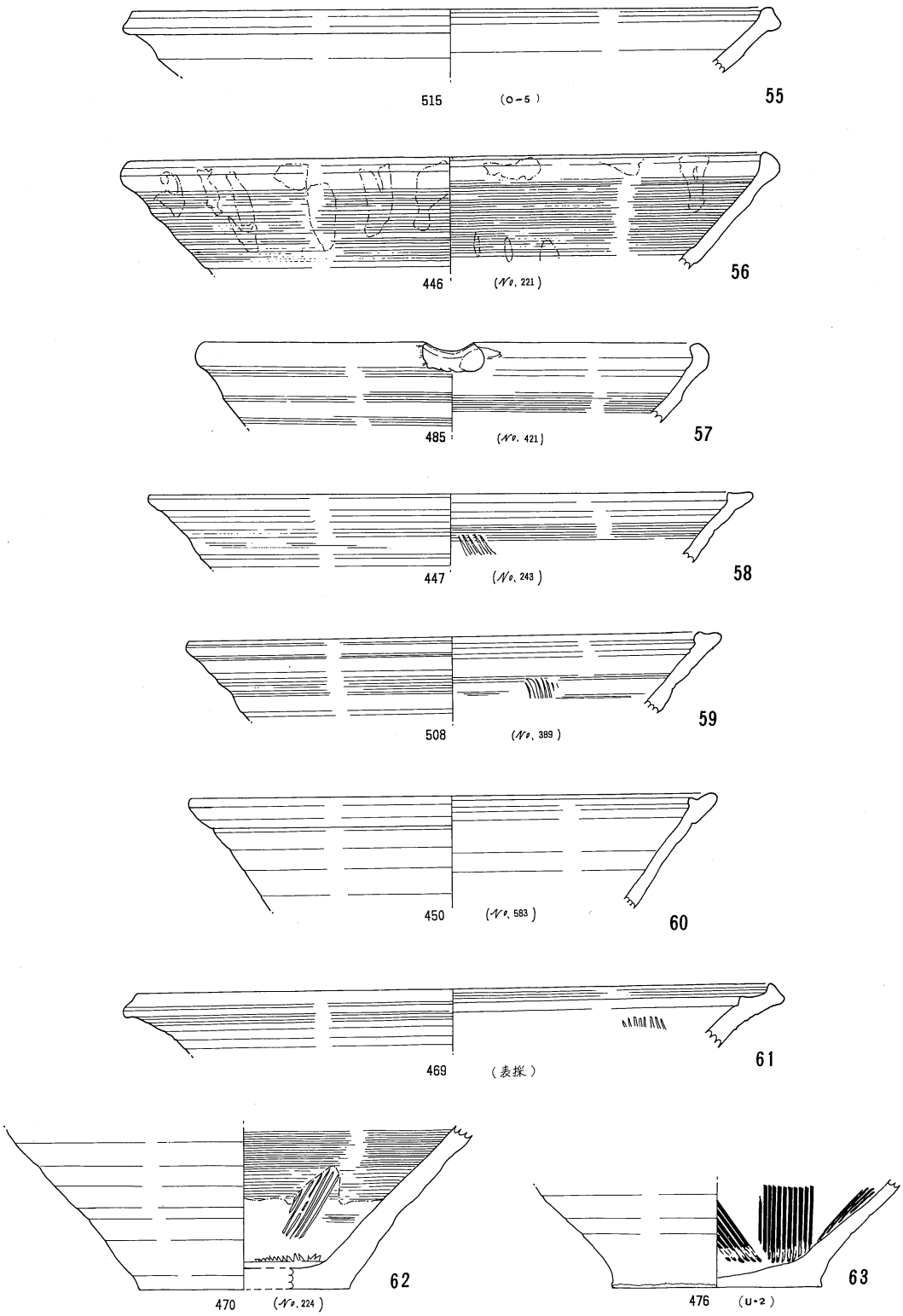
49　天目茶碗。S－9グリッド出土，底部の径4.4cm。輪高台，薄い鉄サビ釉が施されている。大窯期。（図版10－18）



20図　出土遺物実測図　灰釉（24，25　1:3・26～39　1:2）



21図　出土遺物実測図　鉄釉（1：2）



22図　出土遺物実測図　擂鉢（1：3）

50　天目茶碗。主郭表採。底部径 4.2 cm，底部輪高台，鉄サビ釉が施されている。大窯期。（図版10－４）

51　天目茶碗。主郭表採。底部径 4.3 cm，底部輪高台，底部まで鉄釉が施されている。登窯期。

52　天目茶碗。Ｑ－５グリッド出土。底部径 3.4 cm，輪高台，大窯期。

53　鉄釉香炉。Ｐ－７グリッド出土。口縁部破片，口径 8.4 cm，登窯期。（図版10－21）

54　鉄釉仏花瓶。底部から胴部片，底部径 5.4 cm。糸切痕が残っている復原品。大窯期。（口絵７－５・図版９－４・14－４）

擂鉢　（22図）

55　擂鉢。Ｏ－５グリッド出土。大きさ口径29.8cm。口縁部が内側に折り返し立ち上る。全面に薄い鉄釉が施されている。大窯期。

56　擂鉢。Ｓ－６グリッド出土。大きさ口径30.0cm。口縁部が内側に折り返し立ち上る。全面に鉄釉が施されている。大窯期。（図版13－２）

57　擂鉢。Ｔ－６グリッド出土。口径23.2cm，口縁部が内側に折り返し立ち上る。全面に薄い鉄釉が施され片口付。大窯期。（図版13－３）

58　擂鉢。Ｒ－９グリッド出土。口径28.3cm，口縁部が内側に折り返し立ち上る。全面に薄い鉄釉が施されている。一部に目が５本みられる。大窯期。（図版15－３）

59　擂鉢。Ｒ－２グリッド出土。口径25.0cm，口縁部が内側に折り返し立ち上る。全面に薄い鉄釉が施され，擂鉢の目の一部が認められる。大窯期。（図版13－４）

60　擂鉢。Ｏ－12グリッド出土。口径24.6cm，口縁部が内側に折り返し立ち上る。全面に薄い鉄釉が施された擂鉢である。大窯期。（図版15－２）

61　擂鉢。表採。大きさ29.7cm，口縁部が内側に折り返し立ち上る。全面に薄い鉄釉が施された擂鉢である。窖窯期。

62　擂鉢。Ｒ－９グリッド出土。底部径 9.8 cm，内側に５本の櫛目が認められる。薄い鉄釉が施される。大窯期。（図版15－４）

63　擂鉢。Ｓ－７グリッド出土。底部10.0cm。糸切痕が認められる。内側面には底部におろし目を引いている。全面に薄い鉄釉が施してある。復原品。大窯期。

その他の出土遺物　（23図・24図，口絵７，図版９・11・14・15・16・17）

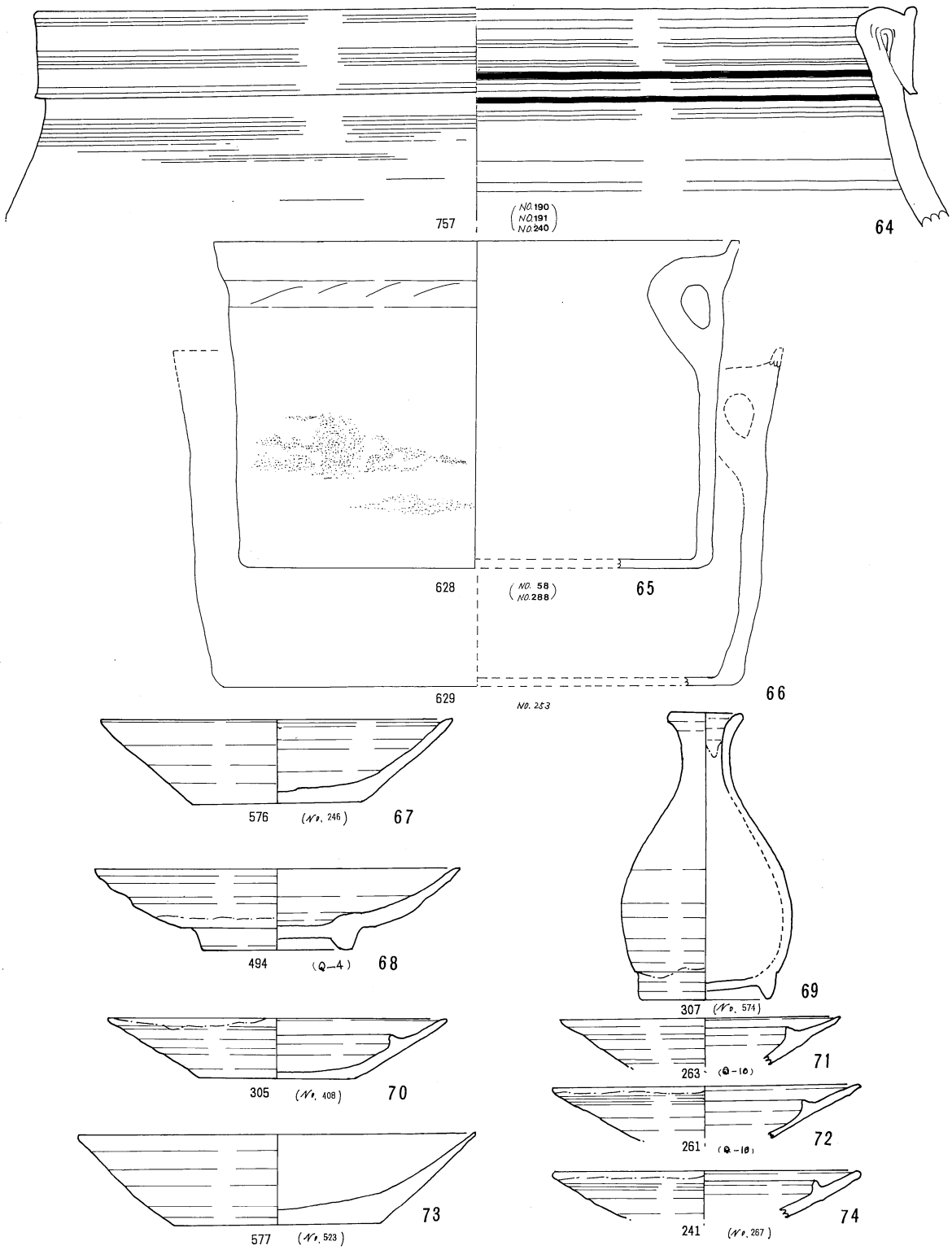
64　甕。Ｓ－６～Ｒ－７グリッドより出土。大きさは口径53.8cm，口縁部は外側に折り返され肥厚である。外側面は頸部まで箆削りで整形された常滑系の甕である。大窯期。（図版11－１）

65　内耳鍋。口径26.5cm，底径23.5cm，高さ16.0cm，厚さ 6.0 cm～ 7.0 cm。大窯期。(図版14-2･3)

66　内耳鍋。口径30.5cm，底径26.0cm，高さ16.7cm，黒煙付着，大窯期。復原品。(図版14－１)

67　皿。Ｒ－８グリッド出土。口径11.6cm，底径 5.7 cm，高さ 2.7 cm，土師質，底部糸切痕を残す。窖窯期。復原品。

68　皿。Ｑ－４グリッド出土。大きさ口径12.0cm，高さ 2.7 cm，高台径 5.0 cm，削高台，内面全



23図　出土遺物実測図　その他1（64　1:4・65，66　1:3・67～74　1:2）

体に鉄釉が施され，腰部位下施釉していない。復原品。大窯期。（図版15－６）

69　徳久利。１号竪穴址より出土。大きさは口径2.2㎝，高さ9.2㎝，高台径4.2㎝，底部を除いた全面に灰釉が施された登窯の製品である。完形品。（図版９－８・15－７）

70　燈明皿。Ｐ－10グリッド出土。大きさ口径11.0㎝，高さ2.0㎝，底径５㎝，篦削，内側全体に灰釉が施されている。復原品。登窯期。

71　燈明皿。Ｑ－10グリッド出土。大きさ口径9.4㎝，内側全体に灰釉が施されている。登窯期。

72　燈明皿。Ｑ－10グリッド出土。口径10.0㎝，内側全体に灰釉が施されている。登窯期。

73　皿。大きさ口径13㎝，底径6.6㎝，高さ3.0㎝。土師質で，復原品。登窯期。

74　燈明皿。大きさ口径10.0㎝，内側に灰釉が施されている。登窯期。　（以上23図）

75　刀の飾金具。主郭表採。青銅製，内長2.2ｍ，最大巾0.7㎝，厚さ0.1㎝の金具。（図版16-2）

76　青銅製飾金具。柄の部分の先に付した金具と考えられる。楕円形で大きさ長径2.7㎝，短径1.6㎝，厚さ0.1㎝弱。Ｏ－13グリッド出土。（図版16－２）

77　金銅製飾金具。渡金が落ちているが表面にわずかに金が認められる。円形で中心に留金具の穴が設けられている。大きさは径3.45㎝，厚さ0.1㎝。今のところ何に使用されたか不明。Ｓ－９グリッド出土。（図版16－２）

78　鼈甲製笄。Ｑ－９グリッド出土。笄の一部で大きさは現在の長さ4.1㎝，巾0.6㎝，厚さ0.25㎝，色調は鼈甲色，中間で折れているので全体を知ることはできない。（図版16－２）

79　刀子。Ｓ－９グリッド出土。今回発見された刀子は４片で，実測は可能なものはこれだけであった。時期不明。

80　鉄鏃。Ｕ－６グリッド出土。今回発見された鉄鏃はほとんど破片であって，完成品はなかった。形態は棒状のものと考えられる。全体の数は確認できないが鏃と思われるものは10個体ほどである。時期不明。

81　坩堝。耐火粘土で作ったもの，大きさは径8.4㎝高さ約3.5㎝，厚さ1.1㎝を計る。時期不明。

82　坩堝。耐火粘土で作ったもの，大きさは径12.5㎝，深さは不明，厚さ1.1㎝，かなり使用されたもの。時期不明。（図版17－１）

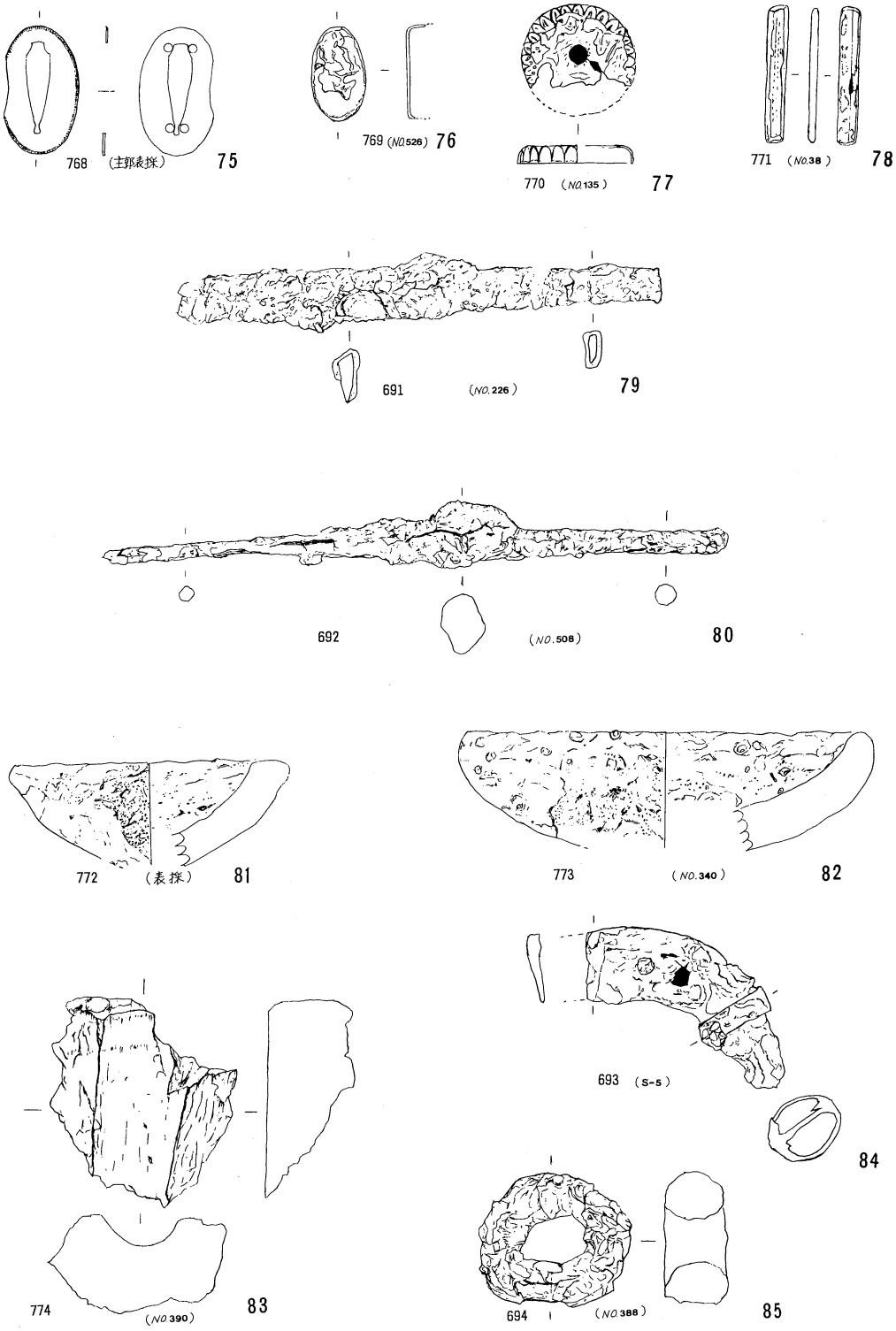
83　羽口。今回発見された羽口は破片であるため全体を知ることはできないが，羽口の内径は2.2㎝程である。胎土は耐火質の強い粘土を用いている。時期不明。（図版17－１）

84　ロクロの付いた中茎鎌。今回発見された鎌は先と柄の部分が折れているので，全体の形態を知ることができないが，刃巾は2.5㎝～3.0㎝程と考えられる。「ロクロ」の径は2.2㎝，厚さ0.2㎝，巾0.7㎝。時期不明。（図版16－３）

85　鉄環。Ｑ－２グリッド出土。楕円形で大きさは長径4.6㎝短径3.9㎝，環の太さ1.3㎝。何に使用したものか不明である。時期不明。（図版16－３）　（以上　24図）

祖母懐壷

茶壷。粘土紐輪積み，頸部外面から胴部内面にかけ回転なで。鉄釉，刷毛塗り，頸部内面から器表面全体と底部内面に，祖母懐銘が入っているが，大草城では今回銘の入ったものは発見できなかった。（口絵８）



24図　出土遺物実測図　その他２（１：２）

その他

鉄屑。鍛冶屋場付近より多く出土した。採取された数は44個である。

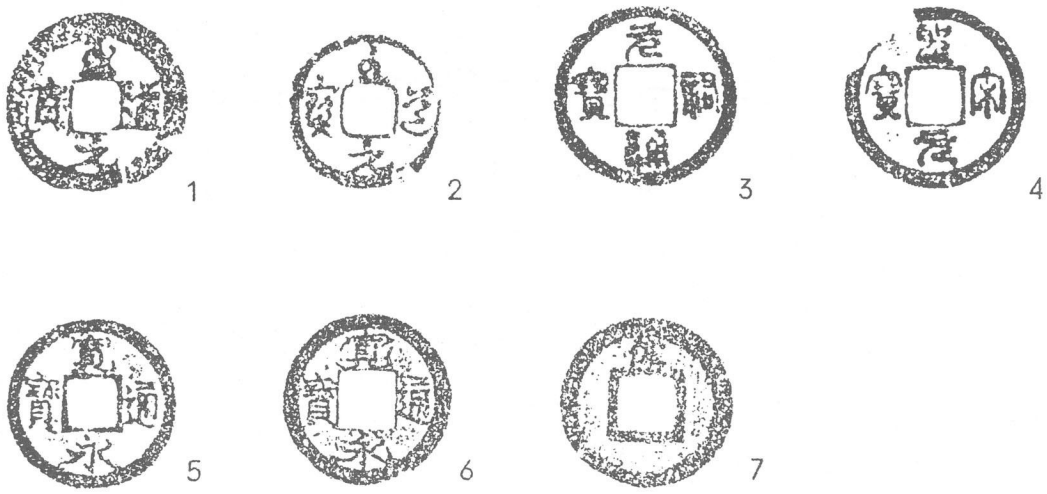
鉄片。74個

鉄金具。3個

キセル。吸口金具3個，江戸時代のものと考えられる。

古銭　（25図・図版9・16）

古銭は発掘全域にわたって出土した。1. No.2至道元宝（北宗995年）。2. No.74至道元宝（北宗995年）。3. No.94元祐通宝（北宗1093）。4. No.294聖宋元宝（1101年）。5. No.295寛永通宝（江戸）。6. O－11寛永通宝（江戸）。7. 6の裏面。



大草城跡発掘された古銭

番号	遺物番号	時　代	遺物名称	出土遺構
1	No. 2	北栄　995	至道元宝	北の郭(二の丸)
2	No. 74	〃　〃	〃	〃
3	No. 94	〃　1093	元祐通宝	〃
4	No.294	〃　1101	聖宋元宝	〃
5	No.295	江戸	寛永通宝	〃
6	O－11	〃	〃	〃
7	6の裏面			

25図　大草城跡出土古銭（1:1）

ま　と　め

大草城の北ノ郭の発掘調査は，我々にとっては予想外の成果をもたらしてくれた。その中から二，三主要と思われる点を指摘しまとめとしたい。

（1）掘立建物址であるが，今回発見されたうちでも重要な遺構の一つである。発見された柱穴の中からその規模・形態・深さ及び柱間間隔などを基準として一応建物の復元を試みたのが図示したものである。この建物は，住居形のもの・倉庫形・簡単な物置的なもの等に分けて復元を試みた。その外に柱穴かピットか不明な穴が多数検出された。これらは，14世紀から戦国時代末期，さらに江戸初期に及ぶものと考えられるところから，これだけ多くの柱穴群となってしまったものであろう。

（2）鍛冶屋場址　今回の調査区域の南半分ほどが鍛冶屋場の範囲となった。出土した遺物は鉄鏃・刀子・小刀の破片などが発見されたことは，大方大草城に関係する物として考えられるが，他に鎌などが発見されたことは武具として一様にとり扱われないが，そのような農具的なものも出土していることに注目したい。そのほか，鍛冶屋場の北側に多くの粘土の塊群が発見された。この粘土塊の付近からは，鋳型や坩堝などの破片がかなりの量検出されているが，製品らしいものはついに発見されなかったが，鋳物の作業場であったことは確かである。私は伊那地方の城館址を多く発掘しているが，大方の城址からは鋳型などが発見されている事実から，城館に鋳物場は必要であったかも知れない。

（3）遺物の主なものは，①中国青磁である。今回検出された中国産の青磁は竜泉窯の製品が主であり，日本製の青磁は検出することができなかった。発見された青磁は碗・皿・鉢・香炉（算木文）などが主なものであった。これらの青磁は，14～16世紀のものであるところから，大草城の存続期間を考えるうえで一つの基準となるものである。②天目茶碗の復元可能のものが10点に達した。これらの天目茶碗は14～16世紀代であるが，破片の中には登り窯の17世紀初頭と思われる製品も含まれていた。これら天目茶碗がこれほど多く発見されたということは，大草城にかかわっていた人々が茶の湯を嗜むことができる立場にあったことを如実に物語ってくれるのである。天目茶碗のほかに西の郭からは「茶うす」が発見されていることもあり，なおさら茶の湯が盛んであったことを思わせるのである。③そのほか碗・皿・擂鉢・徳久利などの施釉陶器が数多く発見され，大草城の文化を知る資料として重要なものとなろう。

以上，重要な考古的資料から文献資料の少ない大草城の研究に大きく貢献することができたのは，中川村宮崎昌直村長をはじめ直接文化財担当の北沢教育長，湯沢・石原次長，係の半崎節子さん・小原妙子さん，申し遅れたが名古屋大学楢崎先生，瀬戸歴史館の宮石・藤沢先生，愛知陶磁館の井上喜久男先生，美濃陶磁研究会の田辺昭二先生をはじめ諸先生方の特別のご指導を頂きましたことを，厚くお礼申し上げまとめとしたい。

調査団長　友野　良一

〔出土遺物一覧表〕

青磁関係

整理No.	実測図挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 高台径	釉薬	時期	備考
1	18図7	口絵5-13	188	S－6	598.12	皿			6.0		14C	竜泉窯
2	18図9	口絵5-14	181	S－10	597.98	碗			5.6		15C	竜泉窯・図版9－6
3		口絵5－9	143	S－7	598.08	碗					15C	竜泉窯
4	18図3	口絵5－3	212	R－11	597.94	碗	12.1				15C	竜泉窯・図版9－6
5			214	R－9	598.02	碗					16C	竜泉窯
6			289	P－8	598.08						不明	
7			247	R－8	597.87	碗					14C明	竜泉窯
8				R－4							不明	
9	18図8	口絵5－5	334	P－13	597.84	碗	17.0				不明	竜泉窯
10			548	S－10	597.84	碗					16C	
11	18図4	口絵5－1	517	Q－11	597.93	碗	14.0				16C	竜泉窯
12	18図10	口絵5-12	500	U－7	597.73	碗	15.8				不明	
13			496	U－6	598.00						不明	
14			476	P－8	597.84						不明	
15			16	S－7	598.14						16C	竜泉窯
16			57	Q－13	597.91						14C	連辨文平碗
17			128	S－11	597.94						不明	
18			45	Q－5	598.12						不明	
19			92	O－9	598.00	碗					14C明	竜泉窯
20			46	Q－5	598.19						不明	
21			64	Q－9	597.86						15C	竜泉窯
22	18図1	口絵5－8	表採	主郭		皿	29.8				14C末	竜泉窯
23		口絵5－7	表採	主郭		碗					14C末	竜泉窯
24	18図12	口絵5－6	表採	主郭		香炉	13.8				14C明	竜泉窯・三足算木文
25			表採	主郭		壷					15C	竜泉窯
26		口絵5-11	表採	大草城							不明	竜泉窯
27			表採	西の郭							〃	
28			表採	主郭							〃	
29			126	S－11	597.96						〃	
40			表採	主郭							〃	
31			表採	主郭							〃	
32				P－13							〃	
33				P－3							〃	
34		口絵5-10		O－11			17.0				14C末	竜泉窯
35				Q－8			17.2				不明	
36	18図2	口絵5－2	180	S－10	597.87	碗	14.0				16C	竜泉窯
37	18図5	口絵5－4	8	S－7	598.16	碗	12.0				16C	竜泉窯
38	18図6		23	Q－13	597.88		17.0				16C	中国陶器
39			表採	主郭							16C	竜泉窯
40	18図11		385	P－10	597.90	小皿			4.0	白磁	不明	
41			表採	主郭							〃	
42			34	Q－9	597.96						〃	
43				S－11							〃	
44			228	S－8	597.81						〃	

天目関係

整理No.	実測図挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 高台径	釉薬	時期	備考
45			77－1	Q－3	598.25					窖窯		
46			101	O－13	597.92					〃		
47			129	S－11	597.91					〃		
48			229	S－8	597.78					〃		
49			265	Q－8	597.86					〃		
50			266	Q－8	597.98					〃		
51			308	P－10	598.10					〃		
52			309	O－8	598.05					〃		
53			365	U－3	598.09					〃		
54			382	Y－6	597.94					〃		
55			405	R－8	597.82					〃		
56				S－10						〃		
57				U－4						〃		

（天目関係）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 高台径	釉薬	時期	備考
58			151	O－13	597.73						登窯	
59			204	R－12	597.85						〃	
60				S－13							〃	
61			3	S－9	578.06						大窯	瀬戸天目
62			15	S－7	578.14						〃	
63			68	S－9	597.89						〃	
64			102	O－11	597.84	天目茶碗					〃	
65			148	S－5	598.11	〃					〃	
66			162	S－9	598.01	〃					〃	
67			200	S－12	597.82	〃					〃	
68			219	S－6	597.90	〃					〃	
69			223	S－6	598.02	〃					〃	
70			230	R－7	597.97	〃					〃	
71			236	R－7	597.96	〃					〃	
72			290	P－7	598.08	〃					〃	
73			293	O－6	598.30	〃					〃	
74			298	P－7	598.02	〃					〃	
75			330	O－12	597.82	〃					〃	
76			341	U－7	598.02	〃					〃	
77			342	U－7	598.06	〃					〃	
78			407	P－9	598.05	〃				鉄釉	〃	瀬戸天目
79			425	T－6	598.15	〃					〃	
80			446	R－7	597.85	〃					〃	
81			447	R－7	597.88	〃					〃	
82			477	P－9	597.90	〃					〃	
83				O－11		〃					〃	
84				P－11		〃					〃	
85				Q－6		〃					〃	
86				Q－7		〃					〃	
87				Q－12		〃					〃	
88				S－7		〃					〃	
89				S－11		〃					〃	
90				S－11		〃					〃	
91				S－11		〃					〃	
92	21図46		140	S－7	598.01	〃	12.6			鉄釉	窖窯	図版10-13掘立建物址
93	19図22	口絵6−1	263	Q－8	597.82	〃	13.2			〃	〃	図版10－14
94	19図19	口絵6−5	89	O－9	598.02	〃	12.0			〃	〃	
95			353	U－6	598.12	〃					〃	図版10－12
96	19図17	口絵6−4	530	Q－11	597.67	〃	12.3			鉄釉	〃	
97			602	U－3	597.85	〃				〃	〃	図版10－16鍛冶屋場
98	19図21	口絵6−3	119	O－13	597.76	〃	11.4			〃	〃	
99	19図20	10－8	614	T－5	597.76	〃	12.0			〃	〃	
100			497	U－6	598.00	〃				〃	〃	
101	19図23	10－11	417	T－4	598.14	〃			4.5	〃	〃	
102		口絵6−7	表採	大草城		〃				〃	大窯	
103			567	S－11	597.76	〃				〃	窖窯	
104			13	S－7	598.16	〃				〃	〃	
105			14	S－7	598.16	〃				〃	大窯	
106	21図45	10－6	282	R－3	598.09	〃	9.0			〃	〃	
107			346	U－7	598.06	〃				〃	〃	
108	21図44	10－7	79	Q－3	597.96	〃	11.0			〃	〃	
109			559	Q－10	597.81	〃				〃	〃	
110				S－7		〃				〃	〃	
111		15－17		R－9		〃				〃	〃	
112			59−1	Q－11	597.94	〃				〃	〃	
113			345	U－7	598.09	〃				〃	〃	
114				Q－8		〃				〃	〃	
115			516	U－5	597.82	〃				〃	〃	
116	21図49	10－18	152	S－9	597.91	〃			4.4	〃	〃	
117				R－7		〃				〃	〃	
118	21図47		表採	大草城		〃	12.0				登窯	

（天目関係）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 高台径	釉薬	時期	備考
119	20図31		表採	大草城		碗			5.8		大窯	
120				O－5		天目茶碗					登窯	
121	21図50	10－4	表採	主郭		〃			4.2	鉄釉	大窯	
122	21図51		表採	主郭		〃			4.3	〃	登窯	
123	19図16	口絵7-4	63	Q－11	597.66	〃	12.0	(7.1)	(4.5)	〃	窖窯	復原品・図版9－3
124	19図14	口絵7-3	121	S－13	597.77	〃	12.3	6.7	4.2	〃	〃	〃 図版9－1
125	19図15	口絵7-2	561	P－12	597.79	〃	11.0	(6.8)	(3.8)	〃	〃	〃
126	19図13	口絵7-1	179	S－12	597.93	〃	12.3	(7.0)	(4.0)	〃	〃	〃 図版9－2
127	19図18	口絵6-2	264	Q－8	598.02	〃	12.0			〃	〃	図版10－15
128			339	T－6	598.28	〃					大窯	
129			6	S－7	598.16	〃					登窯	
130			141	S－7	597.97	〃					〃	
131			276	Q－10	597.94	〃					〃	
132			461	S－7	597.66	〃					〃	
133			145	S－5	598.18	〃					不明	
134			146	S－5	598.22	〃					〃	
135			150	S－5	598.06	〃					〃	
136			171	S－5	597.97	〃					窖窯	
137			261	Q－8	597.82	〃					〃	
138			478	P－9	597.92	〃					〃	
139			604	U－3	597.94	〃					〃	

灰釉関係

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 高台径	釉薬	時期	備考
140		12－5	50	Q－5	598.12	大型平碗				灰釉	窖窯	
141		12－1	51	Q－5	598.17	平碗				〃	〃	
142			62	Q－11	597.77	大型平碗				〃〃	〃	
143			98	O－13	598.02	大型の鉢				〃〃	〃	鍛冶屋場
144			表採	西ノ郭		四耳壷				〃	〃	
145	20図32	11－4	134	S－9	598.01	平碗	11.0			〃	大窯	
146			202	R－12	597.89					〃	〃	
147	20図27	9－7	245	R－9	597.80	平碗	12.0			〃	窖窯	図版11－8
148		12－4	249	R－6	597.92	おろし皿				〃	大窯	
149			303	P－9	598.01					〃	窖窯	
150			304	P－9	598.01					〃	〃	
151			329	O－12	597.80	平茶碗片				〃	〃	
152			419	T－5	598.13	四耳壷				〃	〃	
153	20図24	12－3	426・551	S－7・8	597.80	おろし皿	32.8			〃	大窯	2号竪穴址
154	20図36	11－10	584	O－12	597.82	縁釉皿	10.0			〃	窖窯	
155	20図25	11－7	566	P－13	597.73	深めの鉢	27.8			〃	〃	
156			613	T－5	597.75					〃	〃	
157			617	S－4	597.94	平碗				〃	〃	
158			表採	古城		四耳壷				〃	〃	
159			表採	大草城		平碗高台付				〃	〃	
160			73	Q－7	597.97					〃	〃	
161	20図37	12－6	76-1	Q－3	598.27	縁釉皿	12.6			〃	大窯	
162			427	S－8	597.83					〃	窖窯	
163			136	S－9	598.01					〃	〃	石囲炉址
164			201	R－12	597.90					〃	〃	
165		11－14	178	R－13	597.92	壷				〃	〃	
166	20図30	11－6	211	R－11	597.98	縁釉皿	10.9			〃	〃	
167		11－9	215	R－9	597.98	平碗				〃	〃	
168			222	S－6	598.02					〃	〃	
169			232	R－7	598.08					〃	〃	
170			248	R－7	597.92					〃	〃	
171			259	R－10	598.08					〃	〃	
172			272	Q－5	597.97					〃	〃	
173			299	O－9	598.01					〃	〃	
174			310	O－8	598.06					〃	〃	
175			312	O－8	597.89					〃	〃	

（灰釉関係）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台径	釉薬	時期	備考
176	20図26	11－13	321	P－10	597.92	仏花瓶			3.5	灰釉	大窯	
177			322	O－11	597.93					〃	窖窯	
178	20図33	11－5	326	P－11	597.86	碗	11.0			〃	大窯	
179	20図29	11－3	327	O－11	598.00	平碗	14.0			〃	〃	
180			335	T－7	598.09					〃	窖窯	
181			357	U－5	597.96					〃	〃	
182			377	X－6	598.02					〃	〃	
183			379	X－6	598.03					〃	〃	
184			380	Z－6	597.92					〃	〃	
185			387	Q－2	598.11					〃	〃	
186	20図28	12－2	391	P－6	598.18	平碗	15.0			〃	〃	
187			413	P－10	597.97					〃	〃	
188			422	T－6	598.10					〃	〃	
189			429	T－3	598.25					〃	〃	
190			441	T－5	597.93					〃	〃	
191			464	Q－6	597.95					〃	〃	
192			450	R－7	597.88					〃	〃	
193			472	O－7	598.00					〃	〃	
194			473	O－8	598.03	縁釉皿				〃	〃	
195			475	P－8	597.92					〃	〃	
196			506	T－5	598.03					〃	〃	
197			515	U－5	597.93					〃	〃	
198			521	R－4	597.96					〃	〃	
199			564	O－12	597.72					〃	〃	
200			273	Q－11	598.09					〃	〃	
201				Q－8						〃	〃	
202				Q－7						〃	〃	
203				Q－10						〃	〃	
204				R－9						〃	〃	
205				R－9						〃	〃	
206				S－4						〃	〃	
207				T－5						〃	〃	
208				T－5						〃	〃	
209		11－11	表採	大草城						〃	〃	
210			〃	西ノ郭						〃	〃	
211			〃	主郭						〃	〃	
212			〃	〃						〃	〃	
213			〃	〃						〃	〃	
214			〃	〃						〃	〃	
215			〃	〃						〃	〃	
216			〃	〃						〃	〃	
217			〃	〃						〃	〃	
218			〃	〃						〃	〃	
219	20図34	11－12	〃	〃		皿			4.8	〃	大窯	
220			〃	〃						〃	窖窯	
221			〃	〃						〃	〃	
222			〃	〃						〃	〃	
223			〃	〃						〃	〃	
224			409	P－10	597.44	皿				〃	大窯	
225			601	U－5	597.71	〃				〃	〃	
226			91	O－9	598.02	山茶碗				〃	〃	掘建建物址
227			420	T－5	598.09					〃	〃	
228			表採	大草城						〃	〃	
229			133	S－9	597.93	こね鉢				〃		
230			9	S－7	598.14					〃	登窯	
231			18	S－7	598.12					〃	〃	
232			35	Q－9	597.98					〃	〃	
233			36	Q－9	598.04					〃	〃	
234			37	Q－9	597.98					〃	〃	
235			42	Q－7	598.02					〃	〃	
236			44	Q－5	598.16					〃	〃	

（灰釉関係）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台径	釉薬	時期	備考
237			56	S－5	598.33					灰釉	大窯	
238			90	O－9	598.03	燈明皿				〃	登窯	
239			93	O－9	597.95	皿				〃	〃	
240			227	S－8	597.85					〃	〃	
241	23図74		267-2	Q－8	597.80	燈明皿	10.0			〃	〃	
242			285	S－3	598.14					〃	〃	
243			333	P－12	597.93					〃	〃	
244			366	U－3	598.13					〃	〃	
245			381	B－6	597.92					〃	〃	
246			507	U－7	597.86					〃	〃	
247			320	O－10	597.95					〃	〃	
248			323	O－12	597.95					〃	〃	
249			527	O－12	597.85					〃	〃	
250				O－9						〃	〃	
251				O－10						〃	〃	
252				P－6						〃	〃	
253				P－8						〃	〃	
254				P－8						〃	〃	
255				Q－2						〃	〃	
256				Q－3						〃	〃	
257				Q－5		縁釉皿	12.6			〃	〃	
258				Q－6						〃	〃	
259				Q－6						〃	〃	
260				Q－10						〃	〃	
261	23図72			Q－10		燈明皿	10.0			〃	〃	
262				Q－10						〃	〃	
263	23図71			Q－10		燈明皿	9.4			〃	〃	
264				Q－10						〃	〃	
265				Q－10						〃	〃	
266				Q－10						〃	〃	
267				Q－10						〃	〃	
268				Q－13						〃	〃	
269				R－3						〃	〃	
270				R－3						〃	〃	
271				R－7						〃	〃	
272				R－7						〃	〃	
273				R－6						〃	〃	
274				R－9						〃	〃	
275				R－10						〃	〃	
276				R－11						〃	〃	
277				S－3						〃	〃	
278				S－5						〃	〃	
279				S－5						〃	〃	
280				S－5						〃	〃	
281				S－8						〃	〃	
282				S－8						〃	〃	
283				S－9						〃	〃	
284				S－9						〃	〃	
285				S－9						〃	〃	
286				S－11						〃	〃	
287				S－12						〃	〃	
288				S－13						〃	〃	
289				U－14						〃	〃	
290				T－4						〃	〃	
291				T－6						〃	〃	
292				U－4						〃	〃	
293				Y－6						〃	〃	
294				U－4						〃	〃	
295			表採	主郭						〃	〃	
296			〃	〃						〃	〃	
297			〃	〃						〃	〃	

（灰釉関係）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台径	釉薬	時期	備考
298			表採	主郭						灰釉	登窯	
299			〃	〃						〃	〃	
300			〃	大草城						〃	〃	
301			〃	〃						〃	〃	
302			〃	〃						〃	〃	
303			〃	〃						〃	〃	
304	20図35		593	Q－12	597.79	縁釉皿	9.2	2.5	4.2	〃	窖窯	復原品
305	23図70		408	P－10	597.43	燈明皿	11.0	2.0	5.0	〃	登窯	復原品
306	20図38		167	S－5	598.00	縁釉皿	10.5	2.2	5.3	〃	窖窯	復原品
307	23図69	9-8・15-7	574	U－7	597.85	徳久利	2.2	9.2	4.2	〃	登窯	1号竪穴址・完形品
308	20図39		307	P－10	598.00	縁釉皿	9.2			〃	窖窯	
309			277	Q－7	598.04					〃	大窯	
310				O－11						〃	〃	
311				P－2						〃	〃	
312				P－4						〃	〃	
313				P－3						〃	〃	
314				Q－7						〃	〃	
315				Q－13						〃	〃	
316				R－6						〃	〃	
317				R－7						〃	〃	
318				S－6						〃	〃	
319				S－8						〃	〃	
320				S－9						〃	〃	
321				P－4						〃	〃	
322				T－4						〃	〃	
323			表採	主郭						〃	〃	
324			〃	〃						〃	〃	
325			〃	古城						〃	〃	
326			〃	〃						〃	〃	
327				R－6						〃	〃	
328			19	S－7	598.12					〃	登窯	
329			21	Q－13	597.96					〃	〃	
330			30	Q－9	598.08					〃	〃	
331			49	Q－5	598.17					〃	〃	
332			53	S－5	598.32					〃	〃	
333			95	O－13	597.83					〃	〃	
334			55	S－9	598.31					〃	〃	
335			207	R－11	597.98					〃	〃	
336			270	Q－7	598.09					〃	〃	
337			278	Q－4	597.97					〃	〃	
338			283	O－12	598.12					〃	〃	
339			301	P－9	598.01					〃	〃	
340			306	P－10	598.00					〃	〃	
341			374	T－2	598.15					〃	〃	
342			395	P－2	598.18					〃	〃	
343			416	P－10	597.88					〃	〃	
344			437	U－6	597.96					〃	〃	
345			440	T－5	597.97					〃	〃	
346			474	O－9	597.95					〃	〃	
347			481	P－10	597.90					〃	〃	
348			54	S－5	598.32					〃	〃	
349				O－9						〃	〃	
350				O－9						〃	〃	
351				O－9						〃	〃	
352				O－10						〃	〃	
353				O－11						〃	〃	
354				O－12						〃	〃	
355				O－13						〃	〃	
356				P－7						〃	〃	
357				P－7						〃	〃	
358				P－7						〃	〃	

（灰釉関係）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台径	釉薬	時期	備考
359				P－8						灰釉	登窯	
360				P－8						〃	〃	
361				P－9						〃	〃	
362				P－8						〃	〃	
363				P－8						〃	〃	
364				Q－1						〃	〃	
365				Q－1						〃	〃	
366				Q－4						〃	〃	
367				Q－5						〃	〃	
368				Q－6						〃	〃	
369				Q－6						〃	〃	
370				Q－6						〃	〃	
371				Q－7						〃	〃	
372				Q－10						〃	〃	
373				Q－10						〃	〃	
374				Q－10						〃	〃	
375				Q－10						〃	〃	
376				Q－10						〃	〃	
377				Q－10						〃	〃	
378				Q－10						〃	〃	
379				Q－10						〃	〃	
380				Q－13						〃	〃	
381				R－3						〃	〃	
382				R－6						〃	〃	
383				R－6						〃	〃	
384				R－6						〃	〃	
385				R－9						〃	〃	
386				S－3						〃	〃	
387				S－5						〃	〃	
388				S－5						〃	〃	
389				S－5						〃	〃	
390				S－6						〃	〃	
391				S－6						〃	〃	
392				S－6						〃	〃	
393				S－6						〃	〃	
394				S－7						〃	〃	
395				S－7						〃	〃	
396				S－9						〃	〃	
397				S－9						〃	〃	
398				S－9						〃	〃	
399				S－9						〃	〃	
400				S－9						〃	〃	
401				S－11						〃	〃	
402				S－12						〃	〃	
403				S－12						〃	〃	
404			表採	西ノ郭						〃	〃	
405			〃	大草城						〃	〃	
406			〃	〃						〃	〃	
407			〃	〃						〃	〃	
408			〃	〃						〃	〃	
409			〃	〃						〃	〃	
410			〃	〃						〃	〃	
411			〃	〃						〃	〃	
412			〃	〃						〃	〃	
413			〃	〃						〃	〃	
414				S－6						〃	〃	
415				S－6						〃	〃	
416				S－9						〃	〃	
417				T－4						〃	〃	
418				T－5						〃	〃	
419				T－5						〃	〃	

（灰釉関係）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 高台径	釉薬	時期	備考
420				T－5						灰釉	登窯	
421				T－6						〃	〃	
422				T－6						〃	〃	
423				T－7						〃	〃	
424				T－7						〃	〃	
425			82	O－13	597.92					〃	不明	
426				Q－6						〃	〃	
427				Q－12						〃	〃	
428				Q－13						〃	〃	
429				R－9						〃	〃	
430			表採	古城						〃	〃	
431			〃	〃						〃	〃	
432			〃	〃						〃	〃	
433			〃	大草城						〃	〃	
434			231	R－7	598.04					〃	〃	
435			361	U－4	598.08					〃	〃	
436			411	P－11	597.43					〃	〃	
437			494	T－7	597.87					〃	〃	
438			524	O－12	597.80					〃	〃	
439			525	O－12	597.72					〃	〃	

鉄釉関係

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 高台径	釉薬	時期	備考
440			144	S－7	598.04					鉄釉	窖窯	
441			189	S－6	598.00					〃	〃	
442		10－3	表採	大草城		碗				〃	〃	
443				O－5						〃	〃	
444			52	Q－5	598.32					〃	〃	
445			193	S－6	598.02					〃	〃	
446	22図56	13－2	221	S－6	598.01	擂鉢	30.0			〃	大窯	
447	22図58	15－3	243	R－9	597.95	〃	28.3			〃	〃	
448			268	Q－6	598.05					〃	〃	
449			274	R－11	597.91					〃	〃	
450	22図60	15－2	583	O－12	597.68	擂鉢	24.6			〃	〃	
451			206	R－11	597.86					〃	〃	
452			217	S－6	598.00					〃	〃	
453			218	S－6	598.05					〃	〃	
454				Q－6						〃	〃	
455				S－6						〃	〃	
456				S－8						〃	〃	
457				S－9						〃	〃	
458				S－11						〃	〃	
459				S－12						〃	〃	
460				T－4						〃	〃	
461				T－5						〃	〃	
462			表採	西ノ郭						〃	〃	
463			〃	古城						〃	〃	
464			〃	主郭						〃	〃	
465			〃	〃						〃	〃	
466			〃	〃						〃	〃	
467			〃	〃						〃	〃	
468		13－1	〃	大草城		擂鉢				〃	〃	
469	22図61		〃	〃		〃	29.7			〃	窖窯	
470	22図62	15－4	224	R－9	598.15	〃			9.8	〃	大窯	
471			280	R－4	598.09	〃				〃	〃	
472			511・513	U－5	597.98	〃				〃	〃	
473				Q－2		〃				〃	〃	
474				R－8		〃				〃	〃	
475		13－5		R－6		〃				〃	〃	
476	22図63			U－2		〃			10.0	〃	〃	復原品

（鉄釉関係）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 高台径	釉薬	時期	備考
477			表採	大草城		擂鉢				鉄釉	窖窯	
478	21図40	口絵6−9	401	Q−8	598.25	小壺	4.0			〃	〃	図版10−9
479	21図42	口絵6−8	149	S−5	598.04	小壺	5.0			〃	大窯	図版10−10
480	21図43	10-19・20	316・490	O-10	598.00	香炉	11.2			〃	〃	
481	21図48	10−1	622	Y−6	597.98	天目茶碗	10.0			〃	登窯	
482	21図52		47	Q−5	598.20	天目茶碗			3.4	〃	大窯	
483			104・106	S-7	598.15					〃	〃	
484		15−1	61・67	Q−11	597.72	擂鉢				〃	〃	
485	22図57	13−3	421	T−6	598.06	〃	23.2			〃	〃	片口付
486		15−5	552	R−8	597.76	〃				〃	〃	
487		13−7	10	S−7	598.14	〃				〃	〃	
488			362	U−4	598.05	〃				〃	〃	
489				S−4		〃				〃	〃	
490				R−6		祖母懐壷				〃	〃	
491				R−6		〃				〃	〃	
492				S−9		〃				〃	〃	
493	21図41	口絵6−6	349	U−7	598.09	双耳壷	5.0			〃	〃	図版10−12
494	23図68	15−6		Q−4		皿	12.0	2.7	5.0	〃	〃	復原品
495			表採	古城		擂鉢				〃	〃	
496		10−18	17	S−7	598.21	祖母懐壷				〃	〃	
497			305	P−9	598.01					〃	〃	
498			313	O−10	598.01					〃	〃	
499			317	P−10	598.01					〃	〃	
500			324	O−10	597.87					〃	〃	
501			325	O−10	597.89					〃	〃	
502			343	U−7	598.05	擂鉢				〃	〃	
503			344	U−7	598.06					〃	〃	
504			363	U−4	598.07					〃	〃	
505			364	U−3	598.14					〃	〃	
506			386	P−10	597.91					〃	〃	
507				R−6						〃	〃	
508	22図59	13−4	389	R−2	598.11	擂鉢	25.0			〃	〃	
509			459	S−6	597.70					〃	〃	
510			466	P−7	597.92					〃	〃	
511			499	U−7	597.72					〃	〃	
512			577	O−12	597.83					〃	〃	
513			615	T−4	598.00					〃	〃	
514				O−10						〃	〃	
515	22図55			O−5		擂鉢	29.8			〃	〃	
516	21図54	口絵7−5	220	S−6	597.83	仏花瓶			5.4	〃	〃	復原品・図版9-4,14-4
517			43	Q−5	597.99	祖母懐壷					〃	
518			328	O−12	597.91	〃					〃	
519		口絵8−1	109	S−7	598.11	〃					〃	
520			137	S−9	597.99	〃					〃	
521			172	S−5	598.00	〃					〃	
522			203	R−12	597.85	〃					〃	
523		口絵8−2	213	R−9	597.99	〃					〃	
524			354	U−5	598.06	〃					〃	
525		口絵8−5	355	U−5	598.06	〃					〃	
526		口絵8−4	358	T−4	598.22	〃					〃	
527			412	P−11	598.22	〃					〃	
528			451	T−7	597.87	〃					〃	
529			458	T−7	597.86	〃					〃	
530		口絵8−3	560	S−13	597.68	〃					〃	
531		口絵8−6	590	P−12	597.78	〃					〃	
532			603	U−3	597.98	〃					〃	
533			605	T−5	597.98	〃					〃	
534			430	P−10	598.16	〃					〃	
535				O−9							〃	
536				P−4							〃	
537				Q−7							〃	

（鉄釉関係）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台径	釉薬	時期	備考
538				Q－7							大窯	
539				Q－7		祖母懐壷					〃	
540				Q－7		〃					〃	
541				Q－7		〃					〃	
542				Q－7		〃					〃	
543				R－6		〃					〃	
544				R－7		〃					〃	
545				R－9		〃					〃	
546				S－3		〃					〃	
547				S－3							〃	
548				T－4							〃	
549				T－4							〃	
550			表採	大草城							〃	
551			〃	主郭							窖窯	
552			〃	〃							大窯	
553			〃	〃							〃	
554			〃	〃							〃	
555			〃	〃							〃	
556			〃	大草城							〃	
557			〃	〃							〃	
558				S－9							登窯	
559				Q－13							〃	
560	21図53	10－21	470	P－7	597.90	香炉	8.4			鉄釉	〃	掘建建物址
561		10－22	471	P－7	597.89					〃	〃	
562				Q－7						〃	〃	
563				P－11						〃	〃	
564				T－6						〃	〃	
565				O－5						〃	〃	
566				R－6		擂鉢				〃	〃	
567			113	S－7	598.04					〃	〃	
568			433	T－7	597.88					〃	〃	
569			444	T－6	597.87					〃	〃	
570			488	P－10	597.89					〃	〃	
571		13－6	279・493	R-4・N-10	597.95	擂鉢				〃	大窯	
572			504	P－6	598.05					〃	〃	
573			509	U－6	597.93					〃	〃	
574			542	S－12	597.88					〃	〃	
575			623	X－6	598.02					〃	〃	

土師関係

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台径	釉薬	時期	備考
576	23図67		246	R－8	597.84	皿	11.6	2.7	5.7		窖窯	復原品
577	23図73		523	O－12	597.84	〃	13.0	3.0	6.6		登窯	〃
578			7	S－7	598.16						不明	
579			11	S－7	598.17						〃	
580			22	Q－13	597.91						〃	
581			70	Q－11	597.75						〃	
582			118	O－13	597.83						〃	
583			123	O－13	597.78						〃	
584			154	Q－13	597.73						〃	
585			157	S－7	597.96						〃	
586			170	S－5	598.03						〃	
587			177	R－13	597.78						〃	
588			184	S－8	597.86						〃	
589			185	S－8	597.92						〃	
590			187	S－8	597.92						〃	
591			192	S－6	597.93						〃	
592			238	R－7	597.93						〃	
593			242	S－6	597.89						〃	
594			269	Q－7	598.02						〃	
595			271	Q－6	598.03						〃	

（土師関係）

整理No.	実測図挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 高台径	釉薬	時期	備考
596			436	U－6	597.94						不明	
597			443	T－6	597.89						〃	
598			462	S－7	597.44						〃	
599			465	T－7	597.87						〃	
600			469	P－7	597.95						〃	
601			492	O－10	597.93						〃	
602			495	T－6	597.90						〃	
603			512	O－10	597.92						〃	
604			529	O－12	597.78						〃	
605			531	O－13	597.72						〃	
606			534	P－11	597.83						〃	
607			535	P－11	597.84						〃	
608			539	Q－11	597.77						〃	
609			546	R－11	597.85						〃	
610			557	S－7	597.90						〃	
611			562	P－12	597.78						〃	
612			565	P－13	597.79						〃	
613			569	R－4	598.06						〃	
614			570	U－2	598.04						〃	
615			571	U－2	598.01						〃	
616			573	U－2	598.05						〃	
617			576	O－13	597.74						〃	
618			580	O－12	597.67						〃	
619			581	O－12	597.68						〃	
620			586	O－13	597.74						〃	
621			587	O－12	597.78						〃	
622			588	O－13	597.90						〃	
623			589	O－11	597.73						〃	
624			591	P－12	597.72						〃	
625			592	S－12	597.74						〃	
626			595	Q－12	597.80						〃	
627			597	P－12	597.76						〃	

内　耳

整理No.	実測図挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 器高	法量(cm) 高台径	釉薬	時期	備考
628	23図65	14－2・3	58•288	Q－12	597.99	内耳鍋	26.5	16.0	23.5		大窯	鍛冶屋場
629	23図66	14－1	253	R－10	597.90	〃	(30.5)	(16.7)	26.0		〃	〃　・黒煙付着
630			108	S－7	598.12						不明	
631			237	R－7	597.96						〃	
632			284	R－4	598.13						〃	
633			484	P－10	597.88						〃	
634			4	S－9	598.06						〃	
635			5	S－9	598.05						〃	
636			24	Q－11	597.98						〃	
637			26	Q－11	598.05						〃	
638			41	Q－7	598.11						〃	
639			48	Q－5	598.17						〃	
640			107	S－7	598.11						〃	
641			110	S－7	598.11						〃	
642			111	S－7	598.09						〃	
643			112	S－7	598.07						〃	
644			127	S－11	597.95						〃	
645			130	S－9	598.01						〃	
646			132	S－9	597.92						〃	
647			138	S－7	598.06						〃	
648			139	S－7	598.03						〃	
649			147	S－5	598.06						〃	
650			161	S－7	597.96						〃	
651			173	S－7	597.99						〃	
652			174	S－7	598.00						〃	

（内　耳）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台付	釉薬	時期	備考
653			183	S－8	597.99						不明	
654			234	R－7	598.10						〃	
655			235	T－7	597.95						〃	
656			239	R－7	597.95						〃	
657			241	S－6	597.92						〃	
658			287	R－2	598.14						〃	
659			302	O－9	598.06						〃	
660			336	T－7	598.03						〃	
661			338	T－6	598.02						〃	
662			359	T－4	598.06						〃	
663			360	T－4	598.06						〃	
664			368	U－2	598.18						〃	
665			371	V－2	598.14						〃	
666			399	P－8	598.03						〃	
667			403	R－8	597.91						〃	
668			404	S－7	597.97						〃	
669			410	P－10	597.35						〃	
670			453	R－6	597.89						〃	
671			457	S－7	597.42						〃	
672			460	S－6	597.65						〃	
673			479	P－9	597.90						〃	
674			485	Q－10	597.89						〃	
675			502	U－6	597.92						〃	
676			503	U－7	597.98						〃	
677			505	U－7	597.90						〃	
678			514	U－6	597.99						〃	
679			518	S－7	597.41						江戸	竪穴1号址
680			536	P－11	597.82						不明	
681			543	R－11	597.76						〃	
682			544	R－11	597.86						〃	
683			549	R－10	597.80						〃	
684			556	S－7	597.43						〃	
685			568	R－3	598.01						〃	
686			596	Q－12	597.79						〃	
687			600	U－5	597.67						〃	
688			611	T－5	597.79						〃	
689			616	T－4	598.02						〃	
690			619	R－4	597.88						〃	

鉄製品

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台付	釉薬	時期	備考
691	24図79		226	S－9	597.82	刀子					不明	
692	24図80		508	U－6	597.92	鉄鏃					〃	
693	24図84	16－3		S－5		中茎鎌					〃	
694	24図85	16－3	388	Q－2	598.11	鉄環					〃	
695			1	S－13	597.75	鉄くぎ					〃	
696			12	S－7	598.11	〃					〃	
697			20	Q－13	597.96	刀子					〃	
698			27	Q－11	598.02	鉄くぎ					〃	
699			32	Q－9	598.01	刀子					〃	
700			33	Q－9	597.96	鉄鋌					〃	
701			40	Q－7	598.04	鉄くぎ					〃	
702			66	Q－7	597.85	鉄鋌					〃	
703			81	Q－3	597.97	鉄片					〃	
704			114	S－7	598.04	鉄製					〃	
705			115	O－13	597.80	〃					〃	
706			158	S－7	597.94	〃					〃	
707			159	S－7	597.98	〃					〃	
708			164	S－9	597.91	〃					〃	
709			165	S－9	597.77	〃					〃	

（鉄製品）

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台径	釉薬	時期	備考
710			166	S－9	597.91	鉄製片					不明	
711			168	S－5	598.04	〃					〃	
712			176	S－9	597.87	〃					〃	
713			195	S－6	597.92	鉄鏃					〃	
714			196	S－6	597.91	鉄製片					〃	
715			197	S－6	597.91	鉄鐸					〃	
716			198	R－13	597.67	鉄製片					〃	
717			250	R－6	597.96	〃					〃	
718			260	Q－8	597.90	鉄鐸					〃	
719			262	Q－8	597.82	〃					〃	
720			286	S－4	598.11	〃					〃	
721			348	U－7	598.00	〃					〃	
722			406	P－8	598.19	〃					〃	
723			434	T－6	597.99	鉄製片					〃	
724			435	U－6	597.98	〃					〃	
725			438	T－3	597.98	〃					〃	
726			445	S－7	597.85	鉄鐸					〃	
727			455	U－7	597.93	鉄鏃					〃	
728		17－2	463	T－6	597.90	鉄鐸					〃	
729			467	P－7	598.00	鉄環					〃	
730			480	P－10	597.90	鉄鏃					〃	
731			482	P－10	597.92	刀子					〃	
732			483	P－10	597.90	鉄鏃					〃	
733			487	P－10	597.90	鉄くぎ					〃	
734			489	P－10	597.91	鉄鏃					〃	
735			491	O－10	597.94	鉄鐸					〃	
736			498	U－7	597.88	〃					〃	
737			510	T－5	597.92	〃					〃	
738			520	O－12	597.79	鉄製片					〃	
739			541	R－12	597.83	鉄鐸					〃	
740			545	R－11	597.84	鉄製片					〃	
741			547	R－10	597.85	鉄鐸					〃	
742			550	R－9	597.79	〃					〃	
743			553	R－8	597.76	〃					〃	
744			554	R－12	597.85	〃					〃	
745			555	T－7	597.42	鉄製片					〃	
746			558	S－11	597.85	〃					〃	
747			563	O－12	597.80	鉄鐸					〃	
748			575	O－13	597.72	鉄鏃					〃	
749			579	O－12	597.81	〃					〃	
750			582	O－12	597.68	鉄鐸					〃	
751			594	Q－12	597.78	鉄鏃					〃	
752			599	U－8	597.87	〃					〃	
753			609	T－6	597.78	鉄鐸					〃	
754			610	T－5	597.65	鉄棒					〃	
755			612	T－5	597.78	鉄鐸					〃	
756			620	O－9	597.71	〃					〃	

その他

整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台径	釉薬	時期	備考
757	23図64	11-1｜90・191・240		S-6・R-7	597.98・597.93	甕	53.8			無釉	大窯	常滑系
758		11－2	449	Q－7	597.70	甕					〃	常滑系
759		14－5	142	S－7	597.98					瑠璃釉		
760		13－8・9	88	O－9	597.98	鉢				無釉	大窯	
761	25図1	16－1	2	S－9	598.04	古銭					宋	
762	25図2	16－1	74	O－11	597.99	〃					〃	
763	25図3	16－1	94	O－9	598.01	〃					〃	
764	25図4	16－1	294	O－6	598.12	〃					江戸	図版9－5
765	25図5	16－1	295	O－6	598.13	〃					〃	
766	25図6・7	16－1		O－11		〃					〃	

（その他）

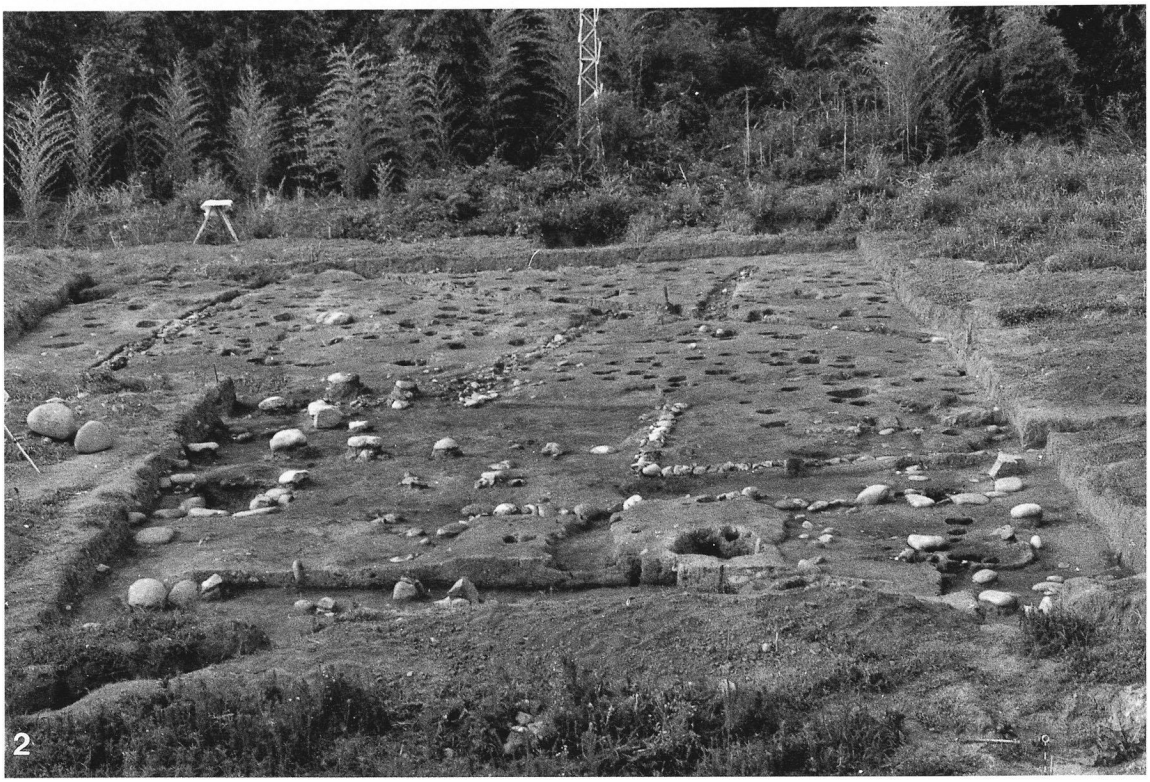
整理No.	実測図 挿図No.	図版No.	遺物No.	出土地点 グリッド	出土地点 レベル	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 高台径	釉薬	時期	備考
767			254	R－10	598.01	古　銭					不明	
768	24図75	16－2	表採	主　郭		刀の飾金具					〃	
769	24図76	16－2	526	O－13	597.73	青銅製飾金具					〃	
770	24図77	16－2	135	S－9	598.00	金銅製飾金具					〃	
771	24図78	16－2	38	Q－9	598.12	鼈甲製笄					〃	
772	24図81		表採	発掘場所		るつぼ					〃	
773	24図82	17－1	340	T－5	598.01	〃					〃	
774	24図83	17－1	390	P－12	598.06	羽　口					〃	鍛冶屋場
775		17－1	519	Q－9	597.80	鋳　型					〃	
776			585	O－12	597.83	〃					〃	
777			618	O－9	598.09	〃					〃	鍛冶屋場
778		18－1・2	384	P－11	597.93・597.85	石ウス					〃	
779		14－7・8・9	448	Q－7	597.77	石　鉢					〃	
780			537	P－10	597.82	スリ石					〃	
781		18－3・4	186	O－13	597.82	砥　石					〃	
782		18－6	572	U－2	597.95	〃					〃	
783		18－6	122	S－13	597.72	〃					〃	
784		18－6		T－4		〃					〃	
785		18－6	65	Q－7	597.98	〃					〃	
786		18－5	621	R・S-7・8	597.91・597.80	大形砥石					〃	

図　版

図版 1

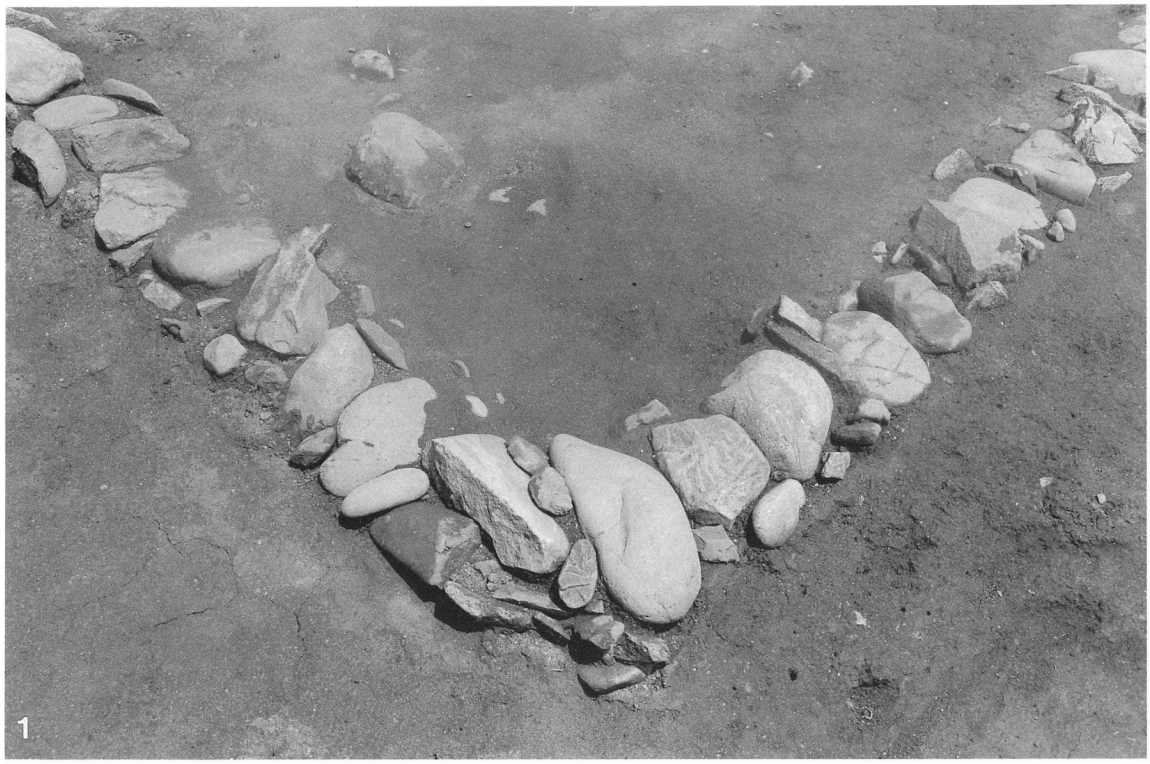
1　主郭（北東側から）　2　主郭（東側から）

図版 2



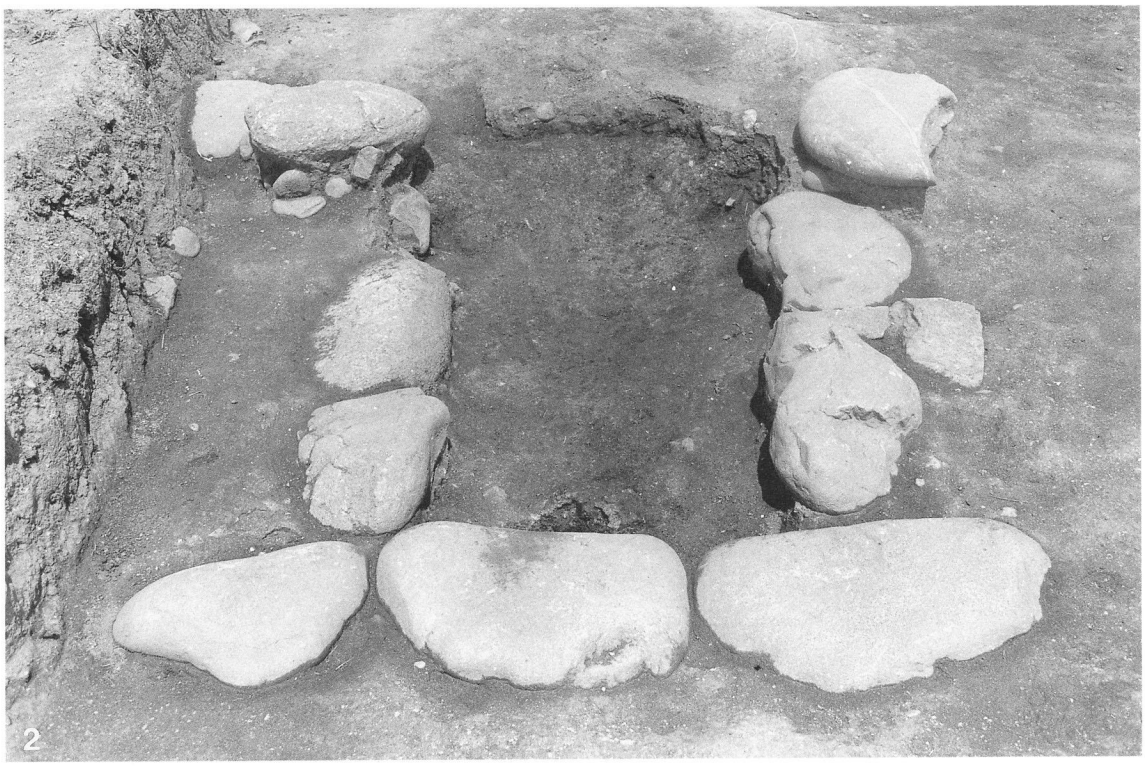
1　北の郭〔外城〕調査前　　2　同所調査後（南側から）

図版 3



1　暗きょ3号（西側より）　2　暗きょ3号　鍛冶屋場（東側より）

図版 4



1　暗きょ3号　鍛冶屋場（東側より）　2　石囲炉址（南側より）

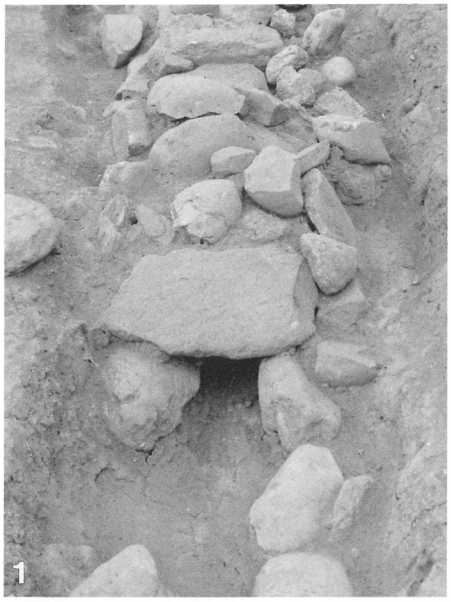
図版 5

1　暗きょ細部　2　暗きょ2号（北側より）　3　暗きょ1号（北東側より）

図版 6

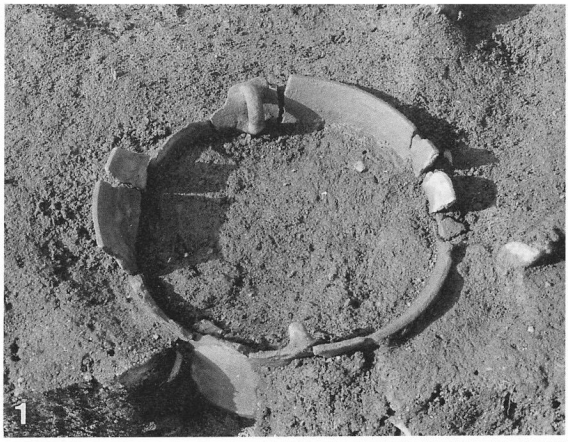
1　暗きょ1号（北西側より）　2　暗きょ1号〔手前〕 暗きょ2号（東側より）

図版 7



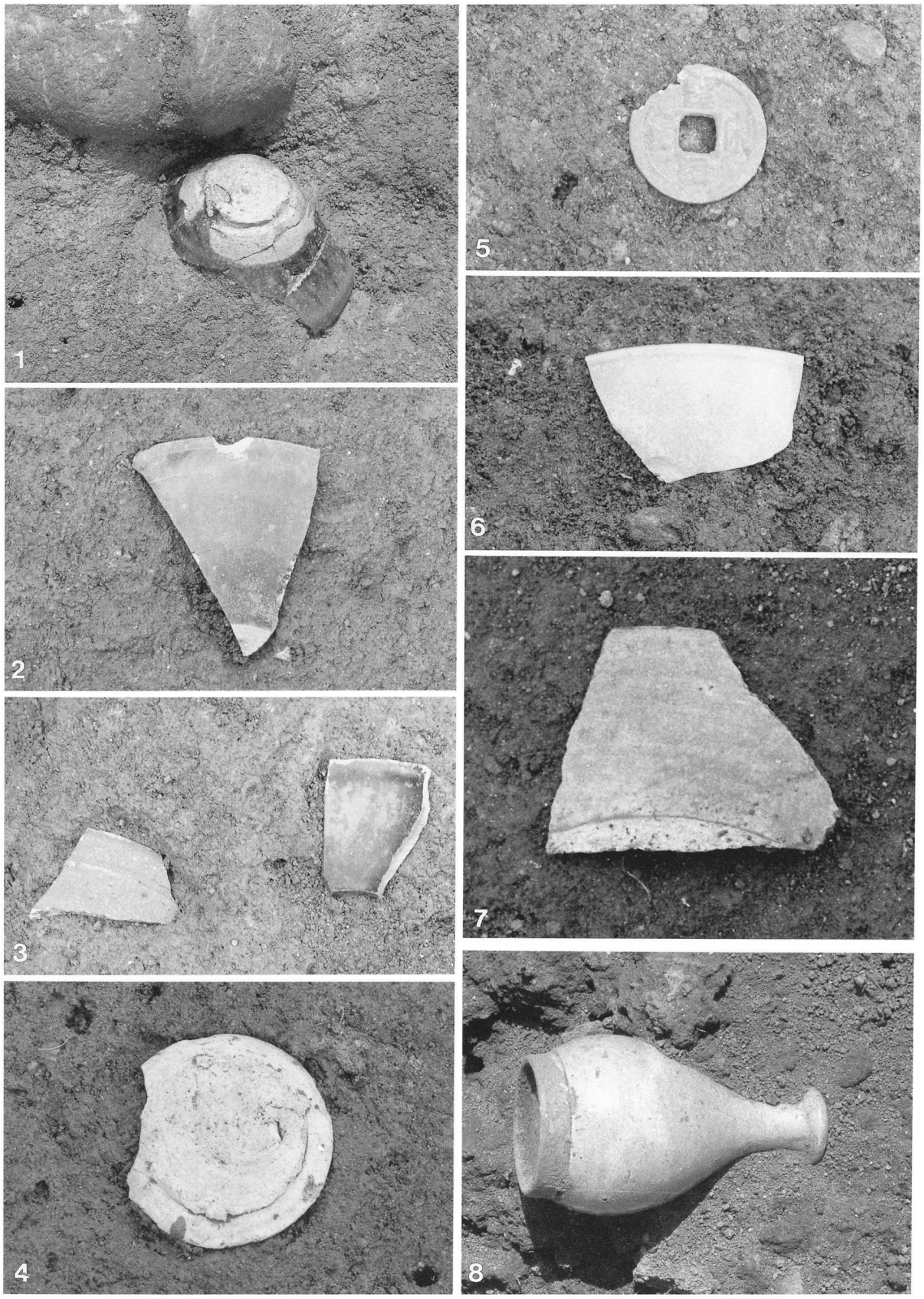
1　暗きょ2号断面　2　暗きょ1号　3・4　暗きょ細部

図版 8

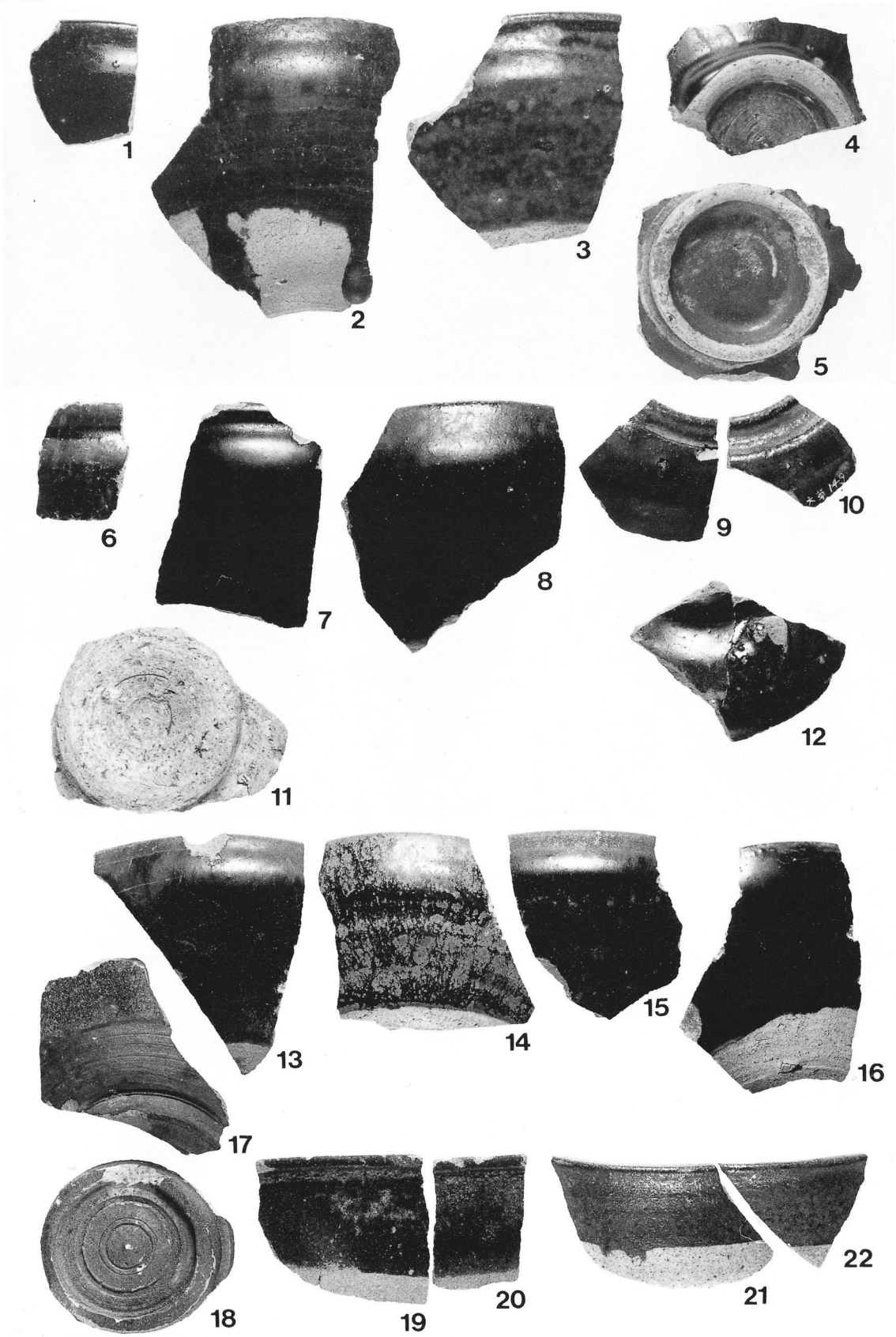


1・2　炉址　3・4　鍛冶屋場　5　2号竪穴址　6　土坑　7　3号土坑　8　1号竪穴址

図版 9

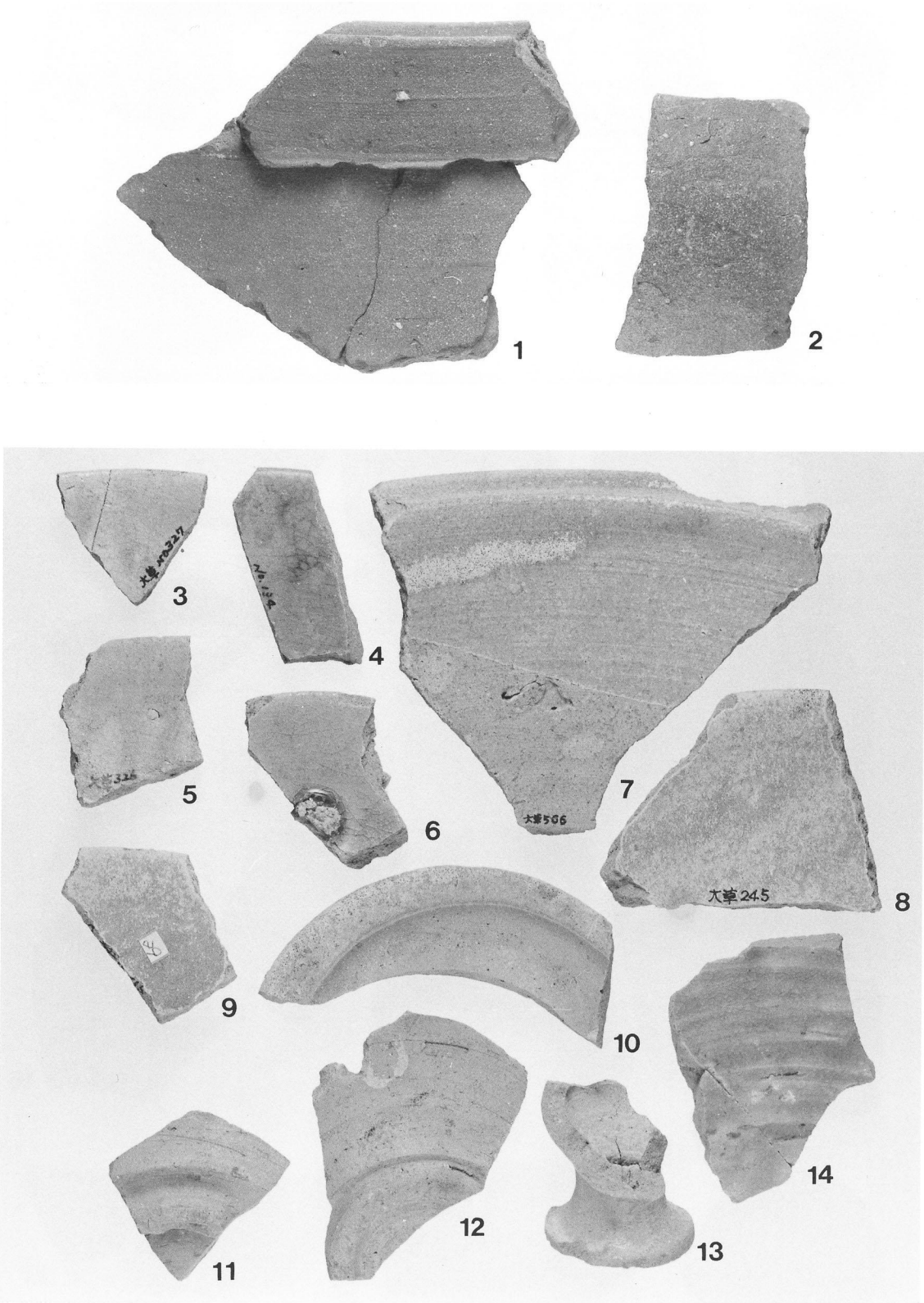


遺物出土状態　1～3　天目茶碗　4　仏花瓶　5　古銭　6　青磁　7　灰釉陶器　8　徳久利



1～8・11・13～17・18 天目茶碗，9・10 小壺，12 双耳壺，19～22 香炉

図版11



1・2　常滑系大甕　　3～13　灰釉陶器